

萩市ひとづくり推進計画



萩 市

目 次

1	はじめに	1
	萩市ひとづくり推進計画について	1
	各分野の基本方針	3
	計画の全体像	7
2	幼児期	8
	現状・課題	8
	社会教育	8
	スポーツ	9
	子ども・子育て支援事業	9
	施策の方向ごとの主な取組	10
3	青少年期	13
	現状・課題	13
	学校教育	14
	社会教育	20
	スポーツ	21
	施策の方向ごとの主な取組	22
4	成人期	25
	現状・課題	25
	社会教育	26
	スポーツ	30
	施策の方向ごとの主な取組	36
5	事務の執行状況の点検・評価	40
	学校教育	40
	社会教育	41
	スポーツ	43
	その他	44
	主な指標に係る現状値	45
6	参考資料	48
	資料1	48
	資料2	49

1 はじめに

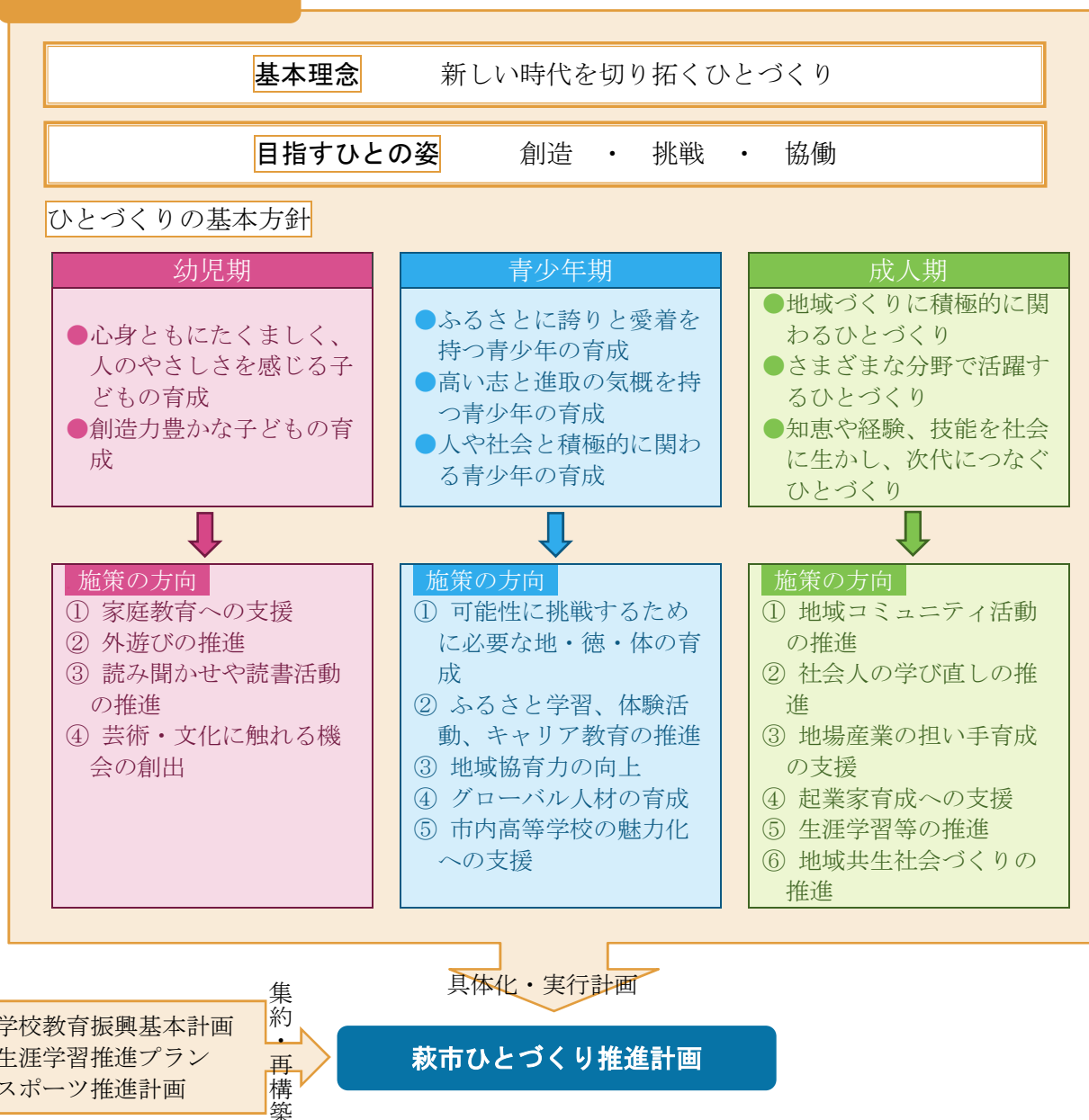
萩市ひとづくり推進計画について

萩市ひとづくり推進計画の趣旨

本市は、「新しい時代を切り拓くひとづくり」を基本理念に掲げた「萩市ひとづくり構想」を平成30年12月に策定し、官民が連携して、学校教育をはじめ、社会教育、スポーツ等のひとづくり関連事業を進めていくこととしました。

萩市教育委員会は、ひとづくりに係る諸計画のうち、萩市学校教育振興基本計画、萩市生涯学習推進プラン、萩市スポーツ推進計画及び萩市子ども読書活動推進計画を所管しています。この度、萩市学校教育振興基本計画の計画期間満了等を契機に、当該諸計画（萩市子ども読書活動推進計画を除く。）を萩市ひとづくり構想のもとに1つの計画として再構築し、学校教育・社会教育・スポーツの分野ごとの記述を軸に、新たなひとづくりのための計画を策定します。

萩市ひとづくり構想



萩市ひとづくり構想に述べるとおり、人口減少や高齢化の進行、急速な技術革新やグローバル化の進展など、本市のひとづくりを取り巻く社会状況はめまぐるしく変化しています。こうした社会の変転や、市民生活の状況等を鑑み、また、平成27年に国連で採択された2030アジェンダ¹に掲げられた持続可能な開発目標（SDGs）を意識し、これまで諸計画のもと進めてきたひとづくりに係る取組を承継・発展させ、今後8年間の本市の目指す方向性と、より具体的な施策を示す新たな指針とするため、萩市ひとづくり推進計画を策定するものです。

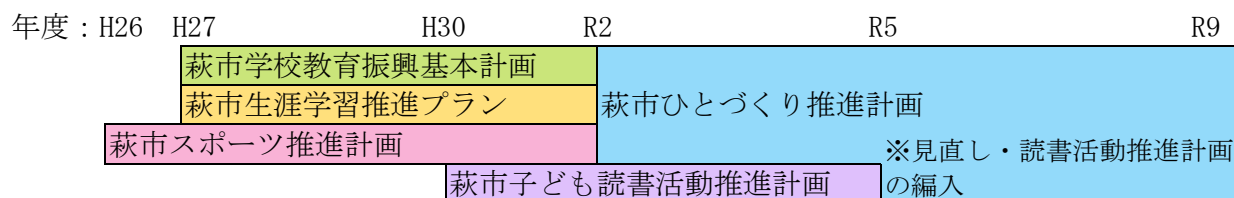
計画の位置づけ

本計画を、本市における、教育基本法（平成18年法律第120号）第17条第2項に規定する教育の振興のための施策に関する基本的な計画及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第1条の3に規定する教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱として位置づけるとともに、計画中スポーツに係る部分をスポーツ基本法（平成23年法律第78号）第10条第1項に規定する地方スポーツ推進計画として位置付けます。

計画期間

計画期間は、令和2年度から令和9年度までの8年間です。

なお、今後の社会情勢の変化に柔軟に対応するため、必要に応じて見直しを行います。また、子ども読書活動推進計画の計画期間が満了する令和5年度には、新たな読書活動推進計画をひとづくり推進計画に編入するとともに、ひとづくり推進計画の中間見直しを行います。



¹ 2030 アジェンダ：国際社会における持続可能な開発のため、先進国と開発途上国が共に取り組むべき普遍的な17の目標を掲げる行動計画。2015年に国連で採択され、2030年を年限とする。

学校教育

目標

ふるさと萩を誇りとし、高い志を抱き、人や社会と積極的に関わる子どもの育成

本市の学校教育は、「志を立てて、以て万事の源となす」と説かれた松陰先生の教えのように、志を抱くことを大切に、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力を育成する「志教育」を萩らしい教育の中心に据え、具体的な取組を進めてきました。

このような中、平成29年3月に、国は、「社会に開かれた教育課程」を理念とする学習指導要領を告示しました。小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から全面実施となります。それぞれの学校においては、この学習指導要領を踏まえ、これからの社会で求められる資質・能力を身に付けるために、どのような学習内容を、どのように学ぶのかといった教育課程を明確にしながら、社会との連携及び協働により、これからの時代に求められる教育を実現していくことが重要となります。

一方、本市では、「萩市基本ビジョン」を支える3つの構想のうち、人材育成の指針となる「萩市ひとづくり構想」を平成30年12月に策定し、本市におけるひとづくりの基本理念や基本方針を明確にしました。

そこで、本計画の策定に当たり、本市の学校教育においては、これまでの成果と、萩市ひとづくり構想及び学習指導要領の理念に基づき、「ふるさと萩を誇りとし、高い志を抱き、人や社会と積極的に関わる子どもの育成」を目標に定め、その達成に向けた取組を次に掲げる**6つの項目**に基づき推進することとします。

1 小中学校における教育体制の充実及び児童生徒の学力の向上

2 小中学校における児童生徒の体力の向上

3 児童生徒の英語教育の充実

4 志教育の推進と地域とともにある学校づくり

5 教育環境の整備

6 市内高等学校の魅力化支援

これにより、子どもの学力向上に向けた授業改善の推進や、人権尊重の意識の高揚、道徳指導の充実、望ましい生活・運動習慣の育成等により、知・徳・体のバランスの取れた子どもの育成を図ります。また、本市が世界に誇るべき自然・歴史・文化に触れる体験学習の実施及び地域・家庭・学校が連携したコミュニティ・スクールとしての取組を充実することにより、ふるさとを誇りに思う心情を育むとともに、地域の教育力を高めてまいります。

さらに、グローバル人材の育成を推進するため、外国語活動や英語教育の充実に努め、子どもが英語に触れる機会を増やすなどの取組を進めてまいります。

本市は、これまで姉妹都市をはじめとした海外の都市と交流を進めてきました。国際的な情勢は、決して安定したものではありませんが、まちとまち、人と人との絆を育み、つながり合うことは、どのような時勢にあっても、不斷の努力によって保つべきかけがえのない取組です。本市では、英語教育を通じ、子どもたちの国際意識の向上及び異文化理解の進展に資する学習の場を提供し、世界を見つめる広い視野を持った児童生徒の育成に努めます。

学校教育に係るこれらの取組の推進には、地域との連携のみならず、小・中 9 年間を見通した教育の展開が不可欠です。平成 28 年度に県内初の小中一貫教育校となった福栄小中学校をはじめ、市内 6 つの小中一貫教育校の先進的な取組の成果を生かし、全小中学校で小中一貫教育を推進します。

また、児童生徒が高等学校まで萩で学ぶことにより、ふるさとへの誇りと志を育むとともに、地域と市内高等学校が連携し、青少年の夢を支え、また、広い世代が交流し、活力あるまちづくりに取り組んでいくため、市内の高等学校の魅力化を支援する施策を展開し、中学生の市内高等学校進学率の向上や高等学校の地域学習のサポート等を実施します。

以上のような取組を展開することで、萩市ひとづくり構想の基本理念である「新しい時代を切り拓くひとづくり」の実現のために、学校教育の立場から、「創造」「挑戦」「協働」する子どもたちの育成を進めます。

社会教育

目標

市民一人ひとりが生涯にわたって生きがいを持って主体的に学び、様々な力を養い、その成果を社会に生かすことができる生涯学習社会の実現

本市では、萩市生涯学習推進プランに基づき、生涯学習のまちづくりを推進してきました。生涯学習とは、市民一人ひとりが自発的意思に基づき、自分に適した手段・方法を選択し、生涯を通じて、生活の充実や社会人としてのスキルアップ、自己実現などを目指し、様々なことを学び、活動することであり、その活動は、社会教育や学校教育における学習活動をはじめ、趣味、文化活動、スポーツ・レクリエーション活動、ボランティア活動等、団体や個人で行う全ての学習を含むものです。

内閣府の「国民の生活に関する世論調査」では、昭和 50 年代以降、物質的な豊かさより心の豊かさを重視する割合が徐々に増加しており、令和元年の調査では、心の豊かさを重視すると答えた者の割合が 62% となり、物質的な豊かさを重視すると答えた者の割合 29.6% を大きく上回っています。一方で、急激な科学技術の革新や情報化社会の進展等により、物質的な豊かさを得た結果としてもたらされた生活様式の変化に適応することは、高齢者をはじめとした市民の負担となる一面も有しています。

このような背景からも、文化・芸術に触れることで心を豊かにする学習活動の場や、市民が新たな知識・技能を習得できる場に対する需要は、今後ますます高まってくることが考えられます。

市民一人ひとりの多様な個性・能力を開花させ、人生を豊かにするとともに、生涯にわたって主体的に学び、様々な力を養い、その成果を社会に生かすことができる生涯学習社会の

実現を目指し、次の「3つの観点（12の項目）」を「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」学べる生涯学習推進の施策の方向性とします。

1 生涯学習の基礎づくり

市民が学習しようとする意欲を高め、その学習を支援する環境を整えます。

- ① 家庭教育力の向上
- ② 地域文化の継承及び保護・活用
- ③ 市民協働による生涯学習の環境づくりの推進

2 生涯学習の場とひとづくり

多様な学習ニーズに応える学習機会を提供するとともに、学習を支援する人材や指導者の育成等に取り組みます。

- ① ニーズに合った学習機会の提供及び学習成果を発揮する機会の創出
- ② 青少年の生涯学習の推進
- ③ 高齢期の学習活動の推進
- ④ 地域の人材発掘と養成
- ⑤ 生涯学習の情報発信

3 生涯学習によるまちづくり

市民・行政・関係機関の連携及び協働を図り、学習活動を通じた地域コミュニティの活性化によるまちづくりに取り組みます。

- ① 地域づくりの推進
- ② 地域学習の推進
- ③ 青少年の地域に関わる体験活動等の推進
- ④ 地域協育ネットの推進

スポーツ

目標

スポーツ活動を通じて、市民だれもがいきいきと心豊かに暮らせるまち・スポーツ分野において、全国そして世界で活躍できる人材の育成を推進する活力と魅力あるまちの実現

本市は、超高齢社会の只中にあり、今後、市民一人ひとりが主体的に健康づくりを実践することができ、誰もがいきいきと暮らすことができる健康長寿のまちづくりに対する要請がますます高まるものと思われます。

スポーツは、健康増進や体力向上に資するだけでなく、人や地域の交流を促進し、活力を生み出す大きな力を持っています。これまで、本市では、スポーツの持つ多様な意義を踏まえ、市民の誰もが、年齢、体力、目的に応じて、いつでもどこでも気軽にスポーツに親しめるよう、萩市スポーツ推進計画に従い、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に進めてきました。

国では、平成27年にスポーツ庁が設置され、オリンピック・パラリンピック競技大会から国民の健康づくりに至るまで、全てのスポーツに関する施策を総合的に推進しています。また、平成29年には、スポーツで「人生」が変わる！「社会」を変える！「世界」とつながる！「未来」を創る！という4つの基本方針を掲げた第2期スポーツ基本計画が策定され、スポーツ参画人口の拡大及び一億総スポーツ社会の実現に向け、取組を進めています。

本市では、これらの動向を踏まえるとともに、萩市基本ビジョン及び萩市ひとづくり構想に掲げる基本理念に基づき、本市のスポーツ推進の更なる進展を目指し、スポーツの有する多様な可能性を活用する次の4つの観点（7つの項目）から、様々な取組を実施します。

1 生涯スポーツの推進

全ての市民が年齢、体力、興味・関心、適性等に応じて、スポーツを楽しみ、スポーツを観覧し、スポーツを支える活動に参加できるように、生涯スポーツ施策の推進に取り組めます。

- ① 幼児期の体力の向上
- ② 生涯スポーツの推進
- ③ 障がい者スポーツの推進

2 競技水準の向上

優秀な選手の育成のために、中・長期的な観点から計画的に選手及び指導者の育成等に取り組めます。さらに、優れた選手と指導者の活用により地域の競技水準の向上を目指します。

3 人材の育成

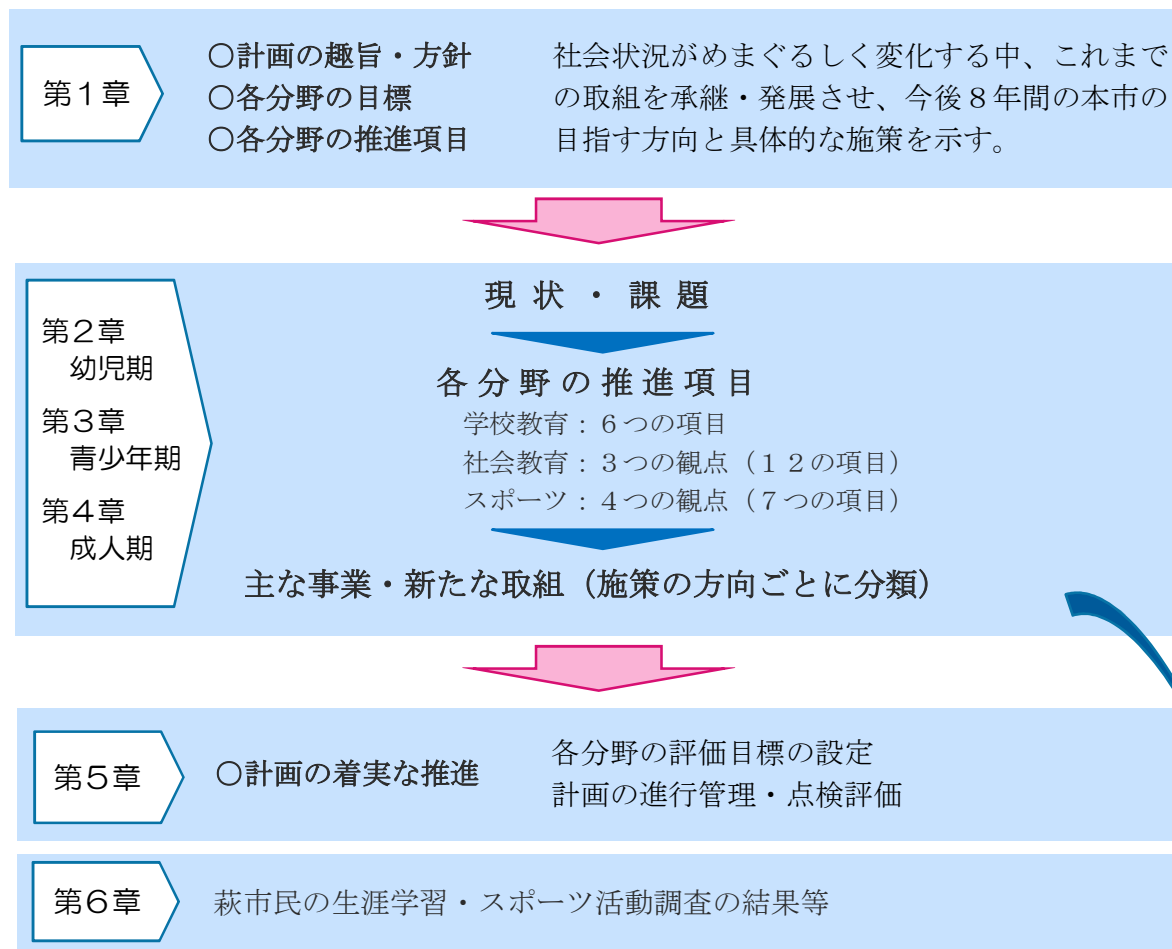
次代を担う子どもたちの心身をスポーツによって健やかにたくましく育むとともに、公正・規律を尊ぶ人間性の^{かんよう}涵養に取り組めます。さらに、スポーツ指導者やボランティア等スポーツを支える人材を育成します。

- ① 将来のスポーツ活動を担う人材の育成
- ② 地域のスポーツを支える人材の育成

4 スポーツの推進による交流人口の拡大及び地域の活性化

地域特性を考慮し、スポーツの有する多様な可能性を活用するとともに、市民が主体となって推進されるスポーツ活動の環境づくりに取り組むことによって交流人口の拡大による地域の活性化を促進します。

計画の全体像



萩市ひとづくり構想の施策の方向と萩市ひとづくり推進計画の各分野の関係

	施策の方向		学校教育	社会教育	スポーツ	その他
幼児期	①	家庭教育への支援				子ども・子育て支援事業計画
	②	外遊びの推進				こども読書活動推進計画
	③	読み聞かせや読書活動の推進				子ども・子育て支援事業計画
	④	芸術・文化に触れる機会の創出				
青少年期	①	可能性に挑戦するために必要な知・徳・体の育成				
	②	ふるさと学習、体験活動、キャリア教育の推進				
	③	地域教育力の向上				
	④	グローバル人材の育成				
	⑤	市内高等学校の魅力化への支援				
成人期	①	地域コミュニティ活動の推進				
	②	社会人の学び直しの推進				
	③	地場産業の担い手育成の支援				地域産業振興構想
	④	起業家育成への支援				地域産業振興構想
	⑤	生涯学習等の推進				
	⑥	地域共生社会づくりの推進				

2 幼児期

心身ともにたくましく、人のやさしさを感じる子どもの育成

創造力豊かな子どもの育成

現状・課題

幼児期から、青少年期、成人期にかけ、それぞれの時期に応じた学習活動や趣味、芸術文化、スポーツ等の活動により、生活の質を高めることは、非常に意義深いことです。自己実現のための学習について、その内容や方法を自ら選び、自分にふさわしい学習活動が積極的に実施できるよう、市民と行政が協働した取組を推進する必要があります。

幼児期は、基本的な生活習慣や人格形成の基礎が作られる大変重要な時期です。この時期の子どもには、愛情を持って接するとともに、子どもが主体性を持って行動するよう見守り、また、様々な体験をさせることが求められます。幼児期の子どもの保護者が、こうした子どもとの関わりの中で、子どもに社会人としての基本となる生活習慣等を身につけさせ、また家族間の愛着を学ばせる家庭教育は、子どもの成長に大きな影響をもたらします。

一方で、核家族化及び少子化の進行、ライフスタイルの多様化により、保護者が子どもに対し、必要な学習を促すことができないなど、家庭教育力の低下が懸念されています。こうした家庭を支援するとともに、地域が一体となって子どもを育てる取組の推進が今後の課題となっています。

また、少子化の問題は、スポーツの分野にも影響を及ぼしています。スポーツに親しみ、運動を生活習慣の中に取り入れるためには、幼少期から、遊びを通じてスポーツを楽しむ素養を育むことが大切ですが、少子化等のため、チームスポーツの実施が困難となるなど、子どもたちがスポーツに関わる状況も変化しています。自由時間の活動に占めるスポーツの割合の向上を図る取組が必要となっています。

社会教育

家庭教育力の向上

家庭教育力の向上を図るため、子育て・家庭教育に関する講座等を開催し、家庭教育及び豊かな人間性の涵養の重要性並びに生きがいなどを子どもに伝えていくことの大切さを保護者に認識してもらうよう促します。

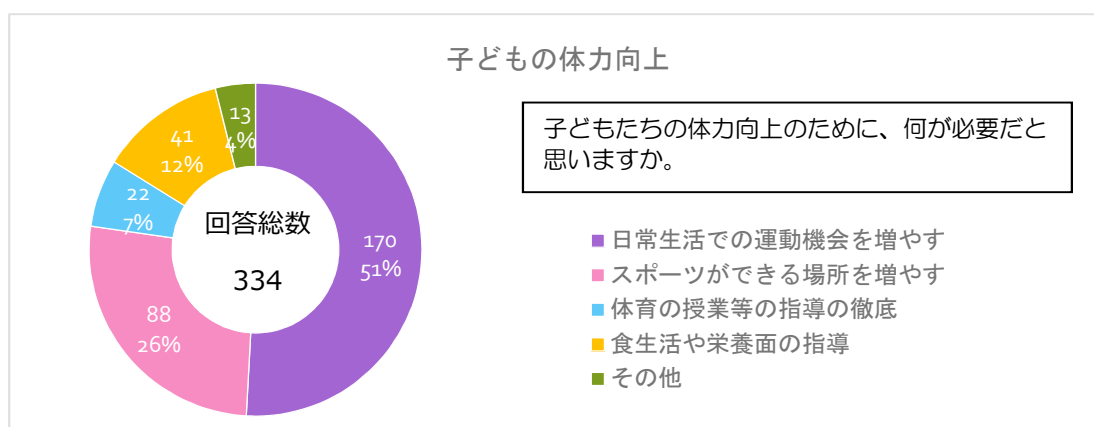
また、保護者と子のふれあいや、保護者同士、子ども同士が交流できる場を提供し、親子の絆を深める取組を支援するとともに、子どもたちの社会性の育成に努めます。

幼児期の体力の向上

本市の子どもの体力を把握し、幼少期からスポーツ活動を習慣化することにより、体力の向上を目指します。特に、外遊びの時間を増やし、屋内外で体を動かす機会や環境を充実させる取組に努めます。また、幼児期から体を動かす楽しさを覚え、運動を好きになるよう、関係団体、家庭や地域等と連携して、運動・遊びによる運動能力の向上を図ります。

本計画の策定に当たり実施したアンケートでは、子どもたちの体力向上のために、50.9%が「日常生活での運動機会を増やす」、26.3%が「スポーツができる場所を増やす」と回答しています。

子どもと保護者が一緒にスポーツ活動できるイベントを開催し、スポーツへの関心を高めます。また、保護者に対しては、適切な運動方法等を助言し、日常的に運動に親しめるよう支援します。そして、子どもたちが安心して、運動・遊びができる環境整備に努めます。



子ども・子育て支援事業

本市では、子ども・子育て支援事業計画を策定し、関係機関・団体と連携を図りながら、子どもたちの成長を支え、また、子どもを育てる上で基本となる家庭を支える取組、そして地域全体で子育てを支える環境づくりを進めています。

当該計画は、「子どもの幸せな成長を家庭や地域で育み 子育ての幸せが実感できるまち」を基本理念に、次の5つの基本目標を掲げ、様々な子育て支援事業を展開します。

【子ども・子育て支援事業計画の5つの基本目標】

① 子どもの生きる力と豊かなこころを育てる

子どもの権利の啓発活動・相談体制の充実、地域の産業・文化との体験交流、家庭の実情に即した教育・保育の対応

② 利用しやすいサービスで子育て家庭をサポート

子育て全般の総合相談窓口体制の充実、子育て情報の提供、保護者の情報交換の場づくり、妊産婦・乳幼児への支援、子育て世帯への経済的支援、障がい児の発達支援・相談体制の強化

③子育てと仕事の両立しやすい環境づくりの推進

子育てと仕事の両立をサポートする保育サービスの充実、ワーク・ライフ・バランスの実現を推進するための意識啓発・情報提供

④ 家庭と地域の子育て力をアップ

子育て学級の開催、子育て支援団体の活動支援、保育園での食育指導

⑤ 安心して子育てができる環境づくり

周産期医療・小児救急等の小児医療の充実、子どもの遊び場・居場所づくり、子どもを交通事故や犯罪から守るための取組、有害情報から子どもを守る取組

施策の方向ごとの主な取組

幼児期のひとづくりに係る本市の主な事業や新たな取組等について、萩市ひとづくり構想の施策の方向ごとに掲載しています。

1 家庭教育への支援

家庭教育力の向上

① 子育てに関する学習機会の充実

親学講座、子育て講座等の開催、子ども情報誌「あ.そ.ぼ。」の発行支援

② 親と子のふれあいの場の提供

NPO萩子どもセンターの活動支援

子ども・子育て支援事業

① 子育て世代包括支援センター運営事業

妊娠期から子育て期にわたる様々なニーズに対して総合的な相談対応及び支援を行うワンストップ拠点・萩市子育て世代包括支援センターHAGUの運営等

② 児童館や子育て支援センターにおける子育て支援事業

未就園児と保護者の集いの場の実施、子育て応援講座、講演会、子育て相談等の開催

③ 親子の遊び場管理運営事業

子どもの遊び場・子育て世代の活動の場として活用でき、体を使ってアクティブに遊べる屋内運動場の運営

④ 多様な主体の協働による新しい事業の創出

保育所等における世代間交流や地域との協働で行う子育て行事の実施、NPO法人、民間団体等の子どもの遊び場・居場所づくりの新たな活動への支援、公民館、保育所、学校等の施設を拠点とする地域交流事業の活性化

2 外遊びの推進

幼児期の体力の向上

① 幼児の総合的な運動能力アップ、スポーツへの関心向上

至誠館大学や至誠館クラブと連携し、様々な運動プログラムを実施

- ・ 幼児運動能力測定（10m走、垂直跳び、ボール投げ等）
- ・ スポーツや親子あそびイベントの開催

② 運動・スポーツのできる環境整備

市民体育館（トランポリン室）、萩ウェルネスパーク（夏みかんらんど）の管理運営

子ども・子育て支援事業

① 児童館・プレーパークの活用

未就園児を対象とした外遊び、体を使った活動等の実施、プレーパークの管理運営



3 読み聞かせや読書活動の推進

子どもの豊かな感性を育み、日常生活では得られない発見や出会いによる成長を促すため、子どもの読書活動を推進します。

子どもの読書活動の推進に係る取組については、第2次萩市こども読書活動推進計画に定めています。

当該計画では、目標として

- ① 家庭・地域・学校・図書館での子どもの読書活動の推進
- ② 子どもの読書活動推進のための環境整備及び推進者への支援
- ③ 子どもの読書活動への理解と関心を深めるための啓発活動

を掲げるとともに、具体的な施策として図書館をはじめ、家庭、公民館、保育所等における取組を定めています。

4 芸術・文化に触れる機会の創出

子ども・子育て支援事業

① 児童館における鑑賞事業等の実施

豊かな感性の育成を目指した人形劇、舞台劇、音楽等の鑑賞活動



3 青少年期

ふるさとに誇りと愛着を持つ青少年の育成

高い志と進取の気概を持つ青少年の育成

人や社会と積極的に関わる青少年の育成

現状・課題

経済状況の変化、勤務形態の多様化、急速な技術革新など変転する社会情勢の中、家庭生活の状況も大きく変遷し、保護者が家庭で十分に子どもと時間を共有することが難しい状況が生まれています。子どもたちの健全な成長のためにも、放課後の子どもの過ごし方に、今以上に様々な角度からきめ細かな支援を行う必要があります。

学校教育については、めまぐるしく変化する社会の中で生き抜く力を養うため、アイデンティティ²の確立に係る取組が重要です。自分の生まれ育ったまちを知り、ふるさとへの誇りと愛情を持つことが、アイデンティティの確立につながります。

そして、子どもたちひとりひとりの個性を尊重し、多様な能力を伸ばすとともに、自己と異なる価値観を受け入れることのできる思いやりのある、人間性豊かで心身ともにたくましい児童生徒を育成することが求められています。

青少年期には、自己のアイデンティティや価値観に係る悩み、人との相互関係に係る問題など、それぞれの生活における不安を抱えるようになるため、その解決に向けた十分な支援ができる体制づくりが必要です。社会構造が複雑化する中、悩みや不安を抱えた青少年が孤立することがないように、家庭・学校・地域が協働し、多くの青少年が地域行事や文化・スポーツ活動に参加できる事業を展開し、希薄化する家族や地域とのつながりの強化に努める必要があります。

また、キャリア教育の積極的な推進により、家庭や地域の教育機能の向上を図りながら、児童生徒の志を育み、将来のふるさとを担う人材を育成していくことも大切です。

選挙権年齢が18歳に引き下げられたこと、また、令和4年から成年年齢の引下げが行われることから、これまでより早い段階から、児童生徒が社会へ参画する意識を持つことが求められます。学校教育においても、ふるさとに関する学習の場などを活用し、児童生徒が地域とのつながりを意識し、社会の一員として自分の住むまちのあり方を考える機会の提供が重要となっています。

教育施設については、児童生徒が安心して安全に過ごすことができるよう、快適な学習環境の整備、防災機能の強化及びバリアフリー化を進めるとともに、急速に進展するグローバル化及び高度情報化への対応が必要です。

そのほか、児童生徒の取り組むスポーツについては、過剰な競技化が進むことで、勝つことだけを求める指導により、児童生徒が燃え尽き症候群や運動嫌いになるというトラブル、早い時期の過度・高度なトレーニングによるスポーツ障がいなどの発生が懸念されます。また、児童生徒の減少や指導者の高齢化によるスポーツ少年団の減少など、児童生徒がスポーツに取り組む場の確保が課題となっています。

² アイデンティティ：自己同一性、自分が他の誰でもない自分であるという自己意識、自分らしさ

小中学校における教育体制の充実及び児童生徒の学力の向上

本市の6校の小中一貫教育校では、その特色を生かした取組が行われています。例えば、中学校の教諭がその専門性を生かし、小学校の授業をサポートしたり、学校行事等を合同で開催したりするなど、9年間を見通し、児童生徒に寄り添ったきめ細かな指導体制を構築しています。これらの取組の成果を生かし、全中学校区において、小中学校が連携したカリキュラムを作成し、9年間を見通した教育を推進します。

小中一貫教育校の状況

- | | | |
|----------|----------|----------|
| ① 三見小中学校 | ② 大井小中学校 | ③ 大島小中学校 |
| ④ 相島小中学校 | ⑤ 見島小中学校 | ⑥ 福栄小中学校 |

H31. 4. 1 現在

また、本市全体の人口減少に伴い、児童生徒数も減少しています。小学校18校のうち7割を超える13校が、複式学級を有しています。

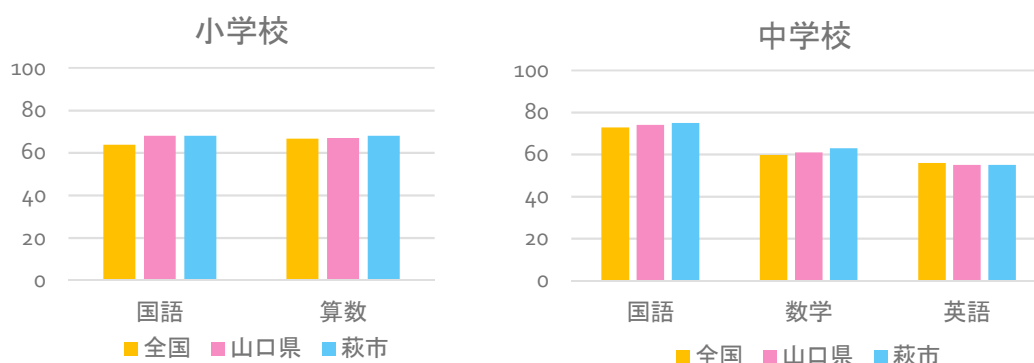
児童生徒数の推移を鑑みると、今後、本市においては、複式学級を有する小規模校における教育の充実が重要な課題となることから、一層の複式指導の充実に努めます。

児童生徒の学力については、令和元年度全国学力・学習状況調査における本市の児童生徒の正答率では、中学校の英語を除く全ての科目で全国平均を上回り、中学校の英語についても全国平均と同程度の正答率となりましたが、回答を分析すると様々な課題も見えてきます。

国語においては、目的や意図に応じて、自分の考えを明確にし、意見をまとめることや、文章の展開に即して情報を整理し、内容を理解することに課題があります。算数・数学では、与えられた情報を解釈し、問題解決の方法等を説明することに課題があります。また、中学校の英語では、情報を正確に聞き取ることや日常的な話題に関する文章を正確に読み取ることについては、多くの生徒ができていますが、聞き取った内容に適切に応答することや与えられたテーマに関する自らの意見を整理し、論理的な文章を書くことについて、課題がある状況です。

当該調査等の結果については、回答内容を分析し、課題を把握するとともに、各学校で具体的な学力向上のための取組プランを作成し、授業改善に生かす取組を進めます。

令和元年度全国学力・学習状況調査の結果（正答率）



全国学力・学習状況調査等の結果を授業改善に活用するとともに、キャリアステージに応じた教職員研修を実施することにより、初任者から勤務経験の長い教職員まで、広く研修機会を確保し、資質及び能力の向上を図ることで、より良い授業づくりを目指します。

また、学校における人権教育を推進するとともに、道徳科を要として子どもたちの倫理観や社会性、規範意識を育むよう道徳教育の充実を図ります。更に、障がいのある児童生徒の能力や可能性を最大限に伸長する特別支援教育の充実に努めます。

いじめや不登校等、生徒指導上の諸課題に対しては、専門家との連携を図りながら、子ども相談・支援室を中心とした生徒指導・教育相談体制の充実を図り、学校の組織的な対応を支援します。

これらの取組を効果的に進めるためには、教職員の資質の維持向上が不可欠です。より良い授業づくりに向けた研修のみならず、児童生徒理解に向けた研修や生徒指導上の問題解決力を高める研修、特別な支援を要する児童生徒への指導に係る研修等の実施に、継続的に取り組みます。

更に、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤となる知識基盤社会と言われる今世紀において、人工知能（A I）、ビッグデータ³、I o T⁴等の高度化した先端技術が産業や社会生活に取り入れられる「Society5.0⁵」時代の到来が予想されています。

このような大きな社会の変化に直面することとなる子どもたちは、自ら考え、表現する力、情報や情報手段を主体的に選択し活用するために必要な情報活用能力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい答えを生み出す力など、変革する社会を生き抜く力を身に付ける必要があります。そこで、本市では、企業や高校等と連携しながら、教育活動にI C Tを積極的に活用するとともに、教員のI C T活用指導力の向上などのスキルアップも進めていきます。

小中学校における児童生徒の体力の向上

平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における本市の児童生徒の平均値は、全国平均及び県平均と比較すると、小学校女子を除き、持久力や敏捷性に優れていますが、柔軟性や握力が劣っているという傾向があります。小学校女子については、全般的に国や県の平均値より運動能力が高い傾向です。

当該調査では、1つでも得意な項目がある児童生徒は、そうでない児童生徒に比べ、運動が好き・体育が楽しいという意識や、運動を自主的に行いたいとする割合が高い傾向にあることも示されています。体力の向上に向け、自発的に運動に取り組む意識付けのためにも、個々の生徒の得意な項目を生かせるような活動も重要です。本市では、全ての学校において体力向上プログラムを作成し、「一校一取組」として、組織的な取組を授業以外の時間にも実施しており、これらの調査結果も踏まえながら、引き続き各校の取組を継続していきます。

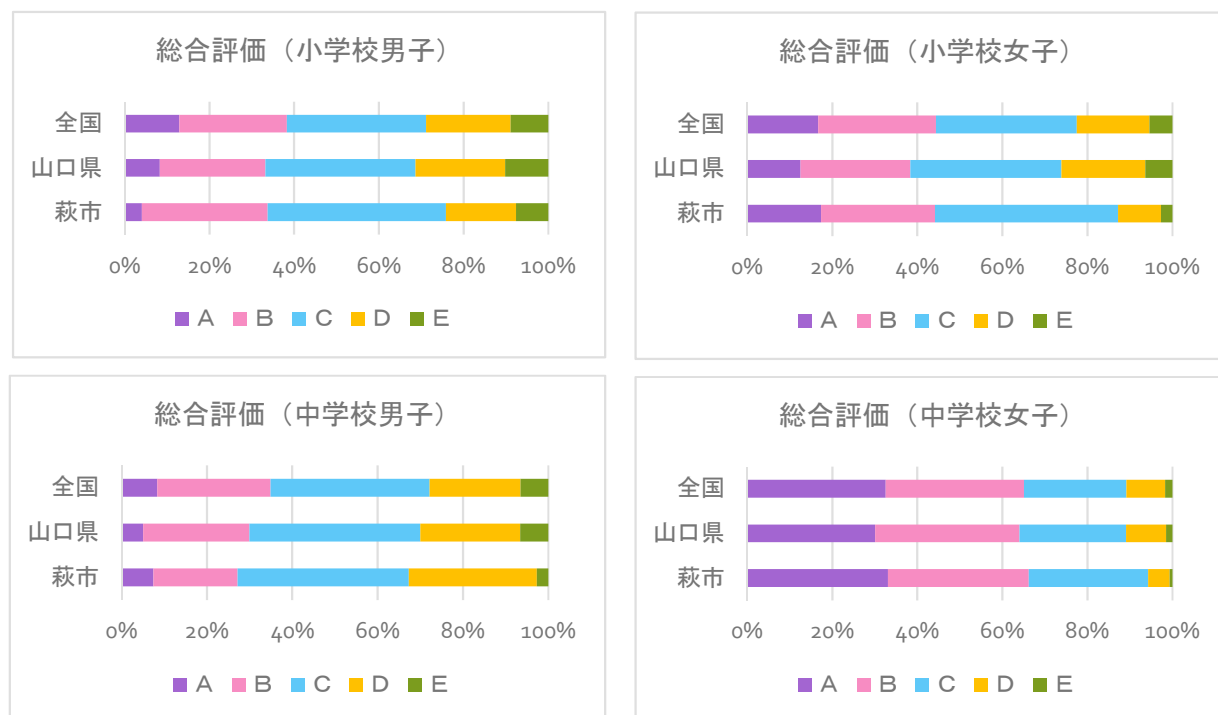
³ ビッグデータ：情報通信技術の進展により生成・収集・蓄積等が可能・容易となった多種多量で更新・生成頻度が高い等の特性を持つデータのこと。

⁴ I o T：Internet of Things（モノのインターネット）の略。様々なモノがインターネットに接続され、情報通信により相互に制御する仕組みのこと。

⁵ Society5.0：サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）のこと。

また、当該調査において、児童生徒の生活習慣と体力・運動能力の関係について、運動・食事・睡眠全てを大切だと考えている児童生徒や朝食を毎日食べる児童生徒は、そうでない児童生徒に比べ、体力合計点が高い傾向にあることが示されています。朝食の習慣化や食育を推進し、担任、栄養教諭、養護教諭等が、保護者とも連携を取りながら、食生活の改善及び望ましい生活習慣づくりに取り組み、児童生徒の健康な身体づくりへの意識向上を図ります。

平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（総合評価）



※ A : 71 点以上 B : 70～63 点 C : 62～55 点 D : 54～46 点 E : 45 点以下

児童生徒の英語教育の充実

経済、産業、文化等様々な分野においてグローバル化が急速に進展している中、国際的な視野、多様な価値観を有する人々と関わる力、高い志を持ってチャレンジする能力など、新しい時代を切り拓く力を持ったグローバル人材の育成が求められています。

グローバル人材の育成に当たっては、学校教育において、実際に英語を用いたコミュニケーションを体験する機会の充実を図ります。小中学校への外国語指導助手（ALT）の派遣、中学校への英語学習指導員の配置、中学校教員の小学校での授業、英会話ロボットの活用、インターネット等を活用した交流等を通じ、英語科教育の充実を図るとともに、英検の受験勧奨及び受験者への英語教室の開催により、英語への関心及び意欲並びに英語能力の向上を目指します。

また、子どもたちが英語学習に主体的に取り組む意識を醸成することも重要です。イングリッシュキャンプや海外語学研修など、英語でのコミュニケーションを行う機会を設け、英語により自らの意見を発信する能力の向上を図るとともに、教員の英語指導力を高める取組を推進します。

さらにグローバルに活躍している人や企業・団体等の関係者から学ぶ機会を設定することで、子どもたちの視野を世界に広げていきます。

グローバル化が進展する中であって、広い国際的な視野とともに、異文化に対する理解、異なる文化を持つ人々と共に協調して生きていく態度等を育成することは、子どもたちにとって大変重要なことです。国際理解を進めるに当たっては、多様な異文化の伝統、習慣、生活様式、価値観等について、「正しい・誤っている」、「良い・悪い」といった態度で臨むのではなく、自他の違いを違いとして認識し、互いに尊重し合う態度を育成することが重要です。

また、国際理解には、自分自身のアイデンティティを明確に持つことも重要です。自己の個人の確立がなされないまま、自分自身が何者か曖昧なままでは、相手への理解も、相手からの理解も、得ることはできません。そのため、広い国際的な視野を持ち、異文化を理解し、異なる文化を持つ人々と共に生きる人材の育成には、まず、子どもたちに、自分自身を培ってきた自国の文化や歴史等について、理解を深めさせることが必要です。

このように、国外の姉妹都市との交流や、青少年の海外交流事業を通じ、異文化への理解とともに日本の文化や歴史を正しく理解することへの取組が求められています。

語学としての英語教育に限らず、A L Tや訪日外国人等との交流を通じ、国際理解の推進及びグローバル人材の育成に努めます。



志教育の推進と地域とともにある学校づくり

明治維新胎動の地として知られる本市は、歴史と伝統を感じさせる町並みと豊かな自然に恵まれた美しい景観を有するまちです。

平成27年7月には、萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所、大板山たたら製鉄遺跡、萩城下町及び松下村塾を含む「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録され、また、平成30年9月には、萩ジオパークの日本ジオパークネットワークへの加盟が認められました。

本市では、この誇るべき自然・歴史・文化を生かした萩らしい教育を推進します。

「志を立てて、以て万事の源となす」と説かれた松陰先生のように、志を抱くことを大切にし、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力を育成する志教育と、

主体的に自らの未来を切り拓くとともに、郷土に誇りと愛着を持ち、地域に貢献する子どもたちを育成します。地域の特産物や生産物を使った起業体験活動、地域の伝統行事への参加、地域イベントの企画・運営等に取り組むことで、地域を支えようとする意識の高揚を図り、将来萩で活躍するひとづくりにつなげるよう努めます。

また、本市では、市立の全小中学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして、地域コミュニティの核となる「地域とともにある学校づくり」に取り組んでいます。地域の人的・物的資源を有効に活用し、児童生徒の知育・徳育の充実を図る体験活動は、萩らしい教育を推進する上で、重要な取組となっています。子どもたちと地域住民とのディスカッションを通して、子どもたちの地域に対する思いを引き出すなど、地域と連携した取組を進めます。

生まれ育った萩のことを様々な観点からしっかりと学び、地域社会の一員としてふるさについて考え、地域と連携を深めながら、ふるさと萩を誇りとし、志を抱き、たくましく生きる子どもを育成します。

教育環境の整備

安全な教育環境のもとで、児童生徒が安心して学習することができるよう、施設整備及び維持管理を計画的に実施していく必要があります。

平成25年11月に国により「インフラ長寿命化基本計画」が策定され、これを踏まえて、文部科学省により施設の長寿命化に向けた取組「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」が平成27年3月に策定されました。

本市では、平成27年3月に「萩市公共施設等総合管理計画」を策定し、これに基づき、学校施設についても長期的な視点に立った施設の更新・長寿命化に取り組んでいます。これに加え、令和元年度に学校施設の長寿命化基本計画を策定し、計画的に予防保全を行うことで、施設の長寿命化を図り、児童生徒が安心・安全に学べる教育環境の整備に一層努めていきます。

トイレの洋式化及び照明のLED化についても、計画的に事業を進め、より良い教育環境の整備に努めます。トイレの洋式化については、市内各小中学校に、児童生徒20人当たりの洋式便器数1個以上、かつ、普通教室エリアに男女各1個以上の整備を目指すとともに、照明のLED化については、市内全小中学校の整備完了を目指し、事業を進めます。

また、学校教育においては、令和2年度から小学校でプログラミング教育が導入されるなど、情報教育及び教科指導におけるICT活用の充実が求められており、情報機器を活用した学習の多様化を図ることも課題となっています。

このため、年次的に校内LANや情報機器の整備更新を行っていますが、今後、児童生徒が使うPC端末については、1人1台の整備を計画的に行っていきます。

このほか、成長期にある児童生徒の心身の健全な発達のため、米飯給食を中心とした栄養バランスのとれた給食の提供に努めています。

衛生管理の徹底を図ること及び地場産食材を積極的に活用することにより、食に関する指導を効果的に進める重要な教材として活用できる学校給食とします。

また、給食調理場については、今後の児童生徒数の推移や施設の老朽化等を勘案し、調理場の共同化を検討します。

市内高等学校の魅力化支援

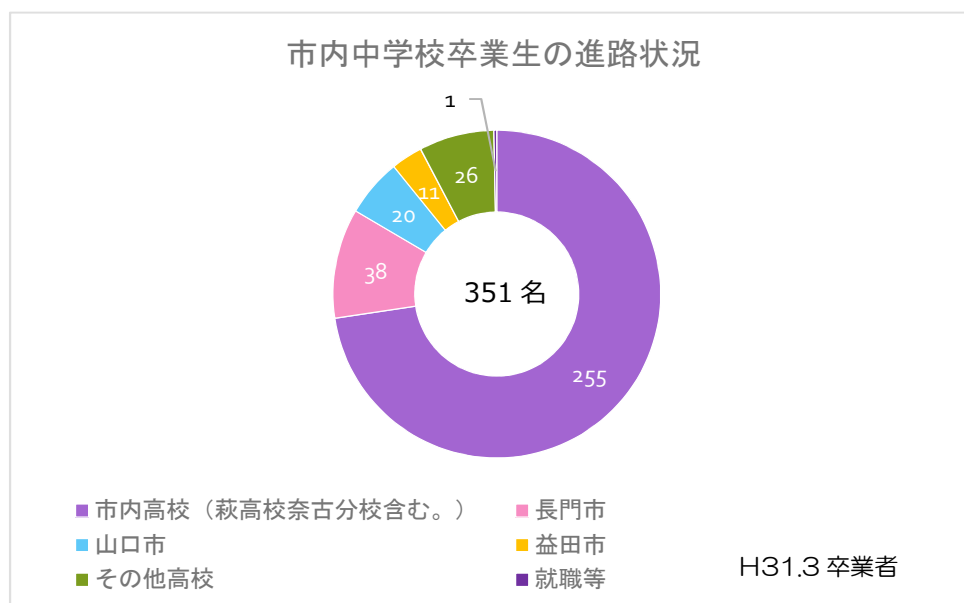
少子化の進行による市内中学校卒業生数の減少、進路選択の多様化等により、市内の高等学校への進学者数は減少傾向にあります。

市内の高等学校の魅力化を支援することにより、市内のみならず、市外や県外からも「萩市で学びたい」「萩市で子どもを学ばせたい」と思ってもらえるよう、高校魅力化を支援するサポート体制の構築や、進学しやすい環境の整備として、高校生寮整備の検討などを進めるとともに、県との更なる連携を図り、地域性や各校の特性を生かした学校づくりへの支援に取り組みます。

また、市内高等学校、市立中学校及び教育委員会が魅力化への方策を協議する場を設け、連携して市内高等学校への進学者確保に取り組むほか、児童クラブの学習ボランティアや小学校でのプログラミング教育への高校生の参画などを通じ、市内の小中学校と高等学校の連携強化を図ります。

市内の中学校及び高等学校がしっかりとつながり、生徒ひとりひとりの成長に寄り添った支援をすることができる体制を作り、特に、「志を育てる」という小中学校の一貫した取組を高等学校とも結びつけ、志を抱き、たくましく生きる力を育んでいきたいと考えています。

毎年萩市内の約3割の中学校卒業生が萩圏域以外の高等学校等に進学する状況の中、生徒数の確保は萩圏域にある高等学校の存続に関わる重要な課題です。「萩の子どもは萩で育てる」ということに、幼保・小・中・高が一体となって取り組んでいかなければなりません。



青少年の生涯学習の推進

青少年期は、家庭や学校、地域において友人や大人に接することにより、これまでより広い社会生活を経験することを通じ、思いやりの心や豊かな人間性を身につけ、社会の一員として自立していく時期であり、この中で、自ら学び考える力を培っていくこととなる重要な期間です。人や社会、自然と関わることのできる体験活動は、こうした時期にある子どもにとって、人間形成の上でも有益であり、「生きる力」を身につけるために重要な取組と言えます。

一方で、社会の構成員として、これまでより広い社会に飛び込み、様々な経験を積む中で、多くの問題や悩みを抱えることとなる時期でもあります。こうした問題や悩みに寄り添い、その解決に向けて十分な支援ができる体制づくりが必要です。

生きる力を身につけ、心豊かで、健全な人格形成をするために、「地域の子どもは地域で育てる」意識を醸成するとともに、家庭・学校・地域・行政が連携し、体験学習の場づくりに努めます。また、いじめ、ひきこもり、不登校等の悩みを抱えた青少年の自立に向けた支援を行います。

青少年の地域に関わる体験活動等の推進

地域を愛し、社会に貢献できる人の育成を目指し、地域の文化やスポーツ、ボランティア活動への青少年の参加を推進します。

青少年が体験や交流活動を通じて、社会性、公共性及び相互扶助について学ぶ体験学習活動を推進します。

地域協育ネットの推進

少子化やライフスタイルの多様化により、地域の人が集う機会が減少し、地域の連帯感や人間関係の希薄化が進んだことに伴い、学校や地域活動への参加意識の低下など地域の教育力の低下が懸念されています。こうした中で、地域による「子育て」を支援するとともに、子どもたちが主体的に育ち、社会性を身につけていく「子育て」の支援に取り組みます。

また、子どもたちのふるさとへの愛着を深めるとともに、地域による子育て支援活動を地域住民の生きがいに結びつけることで、地域の活性化を推進します。

将来のスポーツ活動を担う人材の育成

スポーツ活動を通じ、子どもたちの心身の健全な発育及び発達並びに指導者又はボランティアとして将来のスポーツを支える人材の育成を目指した事業に取り組みます。

スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等のスポーツ団体や学校の部活動を支援し、並びに指導者の養成及び資質の向上を図るとともに、子どもを対象とするスポーツ教室やスポーツイベントへ、優れたスポーツ選手や指導者を招聘することにより、子どもたちがスポーツに親しみ、参加する機会を充実させ、体力の向上、生涯スポーツの実現を図っていきます。

また、子どもたちの多様なスポーツニーズに応えるため、中学校・高等学校部活動の連携や、外部指導者をはじめとした地域社会の人材、スポーツ団体を活用する体制づくりを推進します。

そのほか、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等を契機として、高い目標を目指す子どもたちに対し、やまぐちスポーツ医・科学サポートセンターや大学等の専門研究機関の支援を受け、長期的・計画的な選手育成・強化に努めます。

各種資格や競技経歴を持つ指導者を発掘し、地域コミュニティ組織等と連携したスポーツ・レクリエーション活動の機会の充実を図るとともに、子どもたちがスポーツを通して、規則を遵守し、規律を尊び、仲間を大切にすることを学ぶことができるよう、地域におけるスポーツ活動を支援します。



施策の方向ごとの主な取組

青少年期のひとつづくりに係る本市の主な事業や新たな取組等について、萩市ひとつづくり構想の施策の方向ごとに掲載しています。

1 可能性に挑戦するために必要な知・徳・体の育成

小中学校における教育体制の充実及び児童生徒の学力の向上

① 小中一貫教育の推進

9年間を見通したカリキュラムの作成、地域活性化への貢献

② 主体的・対話的で深い学びの実現

学力向上推進事業、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業改善等

タブレット端末を活用した学習の充実・効果的な実践の普及

③ 複式指導の充実

複式学習指導員の配置、遠隔授業の効果的な活用

④ いじめ、不登校、暴力行為等への対応

専門家や関係機関との連携、輝きスクールの運営、子ども相談・支援室事業、巡回訪問等による学校支援

小中学校における児童生徒の体力の向上

① 基礎体力の向上

体力向上に係る一校一取組の推進

② 望ましい生活習慣の形成

食育の推進、家庭との連携、メディア依存への対応

教育環境の整備

① 学校施設整備・充実

学校トイレの洋式化、学校施設照明のLED化、児童生徒1人1台PC端末の整備

② 安心安全な学校給食の提供

「萩まるごと食べちゃろうデー」及び「県産食材100%献立」の実施

青少年の生涯学習の推進

① 体験学習の推進

未来を切り拓くひとつづくりセミナー、公民館の各教室、放課後子ども教室等の実施

② 文化・スポーツに親しむ活動の推進

伝統芸能を学ぶ機会等の提供、各地域ふるさとまつり等の開催、地域のスポーツイベントの実施及びスポーツ少年団活動の支援

③ 問題を抱えた青少年の自立支援

ユースふれあいスペース事業の実施

将来のスポーツ活動を担う人材の育成

① スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブの充実

萩市スポーツ少年団振興補助事業、広報誌による普及・啓発

② 学校の部活動の充実

中学校・高等学校部活動の連携、外部指導者の活用

2 ふるさと学習、体験活動、キャリア教育の推進

志教育の推進と地域とともにある学校づくり

① キャリア教育の推進

1／2成人式・立志式の実施、キャリアパスポートの作成・活用、13歳志プロジェクト事業、地元企業や団体との連携による職業観・勤労観の育成、起業体験活動の促進

② コミュニティ・スクールの充実

コミュニティ・スクール推進事業、中学生の地域行事への参画

③ ふるさと学習の展開

萩・お宝活用プロジェクト事業、松陰教学推進事業、インターネット等を活用した子どもによる情報発信

青少年の地域に関わる体験活動等の推進

① ボランティア活動の推進

ジュニアリーダーズクラブの活動支援

② 家族での体験活動の推進

家庭の日の啓発、家庭教育支援の実施

③ 地域、放課後等での体験活動の推進

放課後子ども教室の実施、子ども会活動、ボーイスカウト・ガールスカウト活動等の支援

3 地域教育力の向上

志教育の推進と地域とともにある学校づくり【再掲】

① コミュニティ・スクールの充実【再掲】

コミュニティ・スクール推進事業、中学生の地域行事への参画

② ふるさと学習の展開【再掲】

萩・お宝活用プロジェクト事業、松陰教学推進事業、インターネット等を活用した子どもによる情報発信

地域協育ネットの推進

① 地域による子育て支援活動

体験教室による子育て支援、伝統芸能、地域文化等の保存継承に係る活動の支援等

② 家庭の教育支援の充実

親学講座・子育て講座の実施【再掲】

③ 放課後等の支援活動の実施

放課後子ども教室の実施

④ 学校及び地域の連携による実践活動の推進

地域協育ネットの活動支援

4 グローバル人材の育成

児童生徒の英語教育の充実

① 外国語活動、英語学習の充実

英語学習指導員配置事業等、ICTやAIロボット等の活用

② 英語学習への関心・意欲の醸成

チャレンジ英語検定の推進、夏休み英語教室開催事業等

③ 英語に触れる機会の充実

語学研修事業、イングリッシュキャンプ開催事業、ALTの活用機会の拡充等

5 市内高等学校の魅力化への支援

市内高等学校の魅力化支援

① 地元の高校へ進学しやすい環境の整備

高校生寮の運営、通学費助成、広報はぎ等による高校の情報発信の支援

② 市外・県外から進学しやすい環境の整備

高校魅力化を支援するサポート体制の構築、高校生寮整備等の検討

③ その他の高校魅力化への支援

グローバル50奨学金事業をはじめとした各種奨学金事業

県内外の大学と市内高等学校との地域課題に関する協働活動に向けた取組の検討

4 成人期

地域づくりに積極的に関わるひとづくり

さまざまな分野で活躍するひとづくり

知恵や経験、技能を社会に生かし、次代につなぐひとづくり

現状・課題

行政ニーズが多様化・複雑化していく中で、地域づくりや産業の振興、地域福祉の増進など様々な分野において、主体的に地域に貢献できる人材の確保及び地域の課題をその地域コミュニティにおいて解決するという意識を持って、コミュニティを構成するあらゆる人々が自助・共助の精神で協働して課題解決に取り組むことが求められています。

地域コミュニティにおいて、「行政に頼らず自分たちの地域は自分たちでつくろう」という機運の醸成及び地域の課題解決の担い手の育成を図るため、地域コミュニティ活動の活性化を目指し、その活動の支援に取り組む必要があります。また、地域コミュニティは、地域の歴史、文化、芸術、伝統芸能等の継承及び地域の文化財の保存を担う重要な組織であり、その継承・保存に係る活動を推進することにより、多様な世代が交流し、地域で心豊かに生きることができる環境づくりを支援します。

成人期のひとづくりにおいては、自己のスキルアップや自立のための資格取得、リカレント教育等多様なニーズに応じた社会人の学び直しの機会の確保が重要となります。また、各分野で活躍する人、様々な知識、経験等を有する人との交流の機会を設けることにより、人材が活躍する場を創出するとともに、それを契機として新たな学びへの挑戦につなげる取組が求められています。

一方で、活力ある地域社会は、個々の能力の向上だけではなく、コミュニティにおける多様な人や世代とのつながりと支え合いにより形成されていきます。地域には、高齢者をはじめ、人生での豊かな経験・知識・技能を有する人々がいます。こうした経験等を、異世代間の交流により、青少年等の若い世代に引き継いでいくことで、新たな担い手を育て、また、高齢者が指導者としての生きがいを見出すなど、地域コミュニティの活性化へとつなげていくことが重要です。

地域に住む人が、生涯学習、地域行事、スポーツ活動等の様々な活動に積極的に参加していくことで、その縁をつなぎ、より強固に結びつくことで、地域に住むひとりひとりが相互に支え合い、誰もが住みなれた地域で、自分らしく安心して生活することができる地域共生社会を目指し、地域社会を支えるひとづくりに行政と地域が手を取り合って、取り組んでいかなければなりません。

また本計画の策定に当たり実施したアンケート（以下この章において「アンケート」といいます。）では、スポーツに関して、多くの人が運動不足を感じている一方で、面倒であること、忙しく時間が無いこと等を理由に、4割以上の人が週に1回未満の運動の頻度となっています。しかし、平成24年度に実施した調査では半数近くに及んでいた「全く運動をしない」が、今回の調査では17%に留まっています。回答では、公園や自宅といった身近な場所で、ウォーキングや体操等の比較的気軽に取り組める運動を実施する人が多い傾向がうかがえることから、このような運動に低頻度でも取り組む人が増えたものと推察されます。個人のライフスタイルに合った、身近で気軽に始められる運動機会の提供により、運動に取り組むきっかけを作り、運動の習慣化を図っていく必要があります。

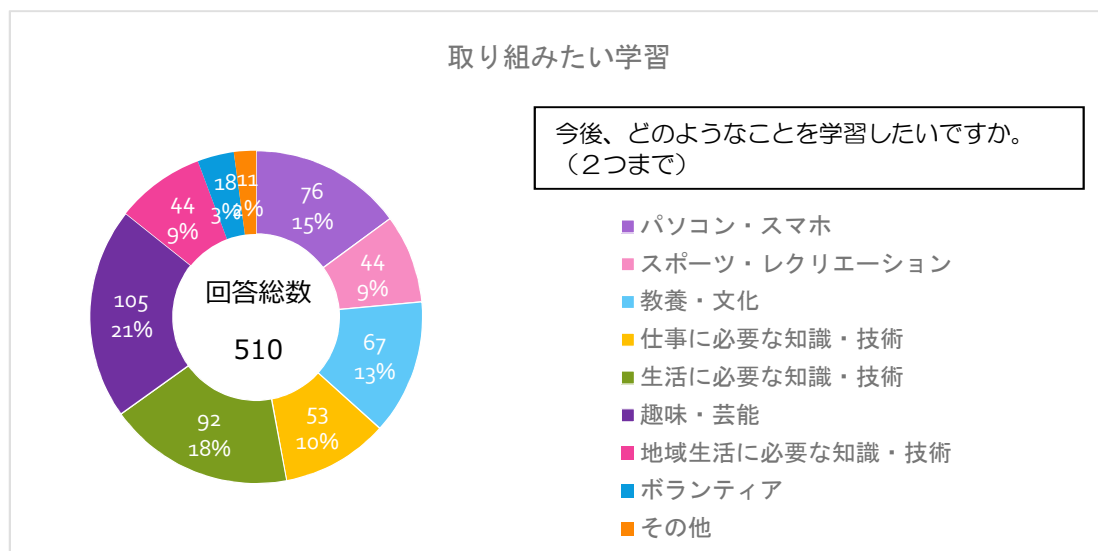
ニーズに合った学習機会の提供及び学習成果を発揮する機会の創出

社会人など、成人期のひとづくりにおいては、学び直しや知識の更新などのスキルアップや、社会人として必要となった新たな知識・技術を身につけるためのリカレント教育など、多様な学習スタイルへの対応が求められます。

一方で、社会人は、地域社会の抱える課題解決の担い手としても期待されていることから、地域社会に貢献し、活躍できる人材育成のための学びの機会の提供も重要となってきます。

アンケートによると、今後取り組みたい学習として、「趣味・芸能」がトップで、続いて「生活に必要な知識・技術」、「パソコン・スマホ」、「教養・文化」という回答が多くありました。これを参考に、今後も、公民館などの社会教育施設において、ニーズに沿った学習メニューを企画・実施します。

また、自己実現の場、学習成果の発表の場とするとともに、新たな人材の発掘や団体同士の交流の場となるよう「公民館まつり」等の事業を実施します。



本市は、手話を用いて語る方が安心して暮らすことができるまちづくりを目指し、平成26年に萩市手話言語条例を制定しました。手話の理解・普及を図り、手話を用いて語る方とそれ以外の方が共生できるまちづくりを推進するためには、手話通訳者や要約筆記者等といった意思疎通支援者の確保が不可欠です。本市では、手話奉仕員養成講座や要約筆記体験講座を開催し、意思疎通支援者の育成やスキルアップを図るとともに、社会福祉法人等と連携し、これらの講座を通じて身につけた技術を生かすことにより、手話言語条例に掲げる共生社会の実現を目指し、取組を進めます。

そのほか、訪日外国人の増加や事業のグローバル化などを契機に、成人期における英語力の向上に対する需要が高まっていることから、国際交流員等による英会話講座の開催など、市民のニーズに合った学習機会の提供に努めます。

高齢期の学習活動の推進

持続可能で活力ある地域社会の構築及び生涯にわたって主体的に学び、能力を生かすことができる社会の実現には、高齢者の持つ技術や知識を活用するとともに、次代へつないでいく仕組みづくりが必要です。高齢者の豊かな経験の中から生まれた技術や知識を生かし、生きがいを持って活動することができるよう、若い世代との交流の場などに積極的に参加できる環境の整備が求められています。

また、高齢者を対象とした健康、疾病予防等に関する教育の機会や、生きがいづくりにつながる講座等の充実を図っていきます。

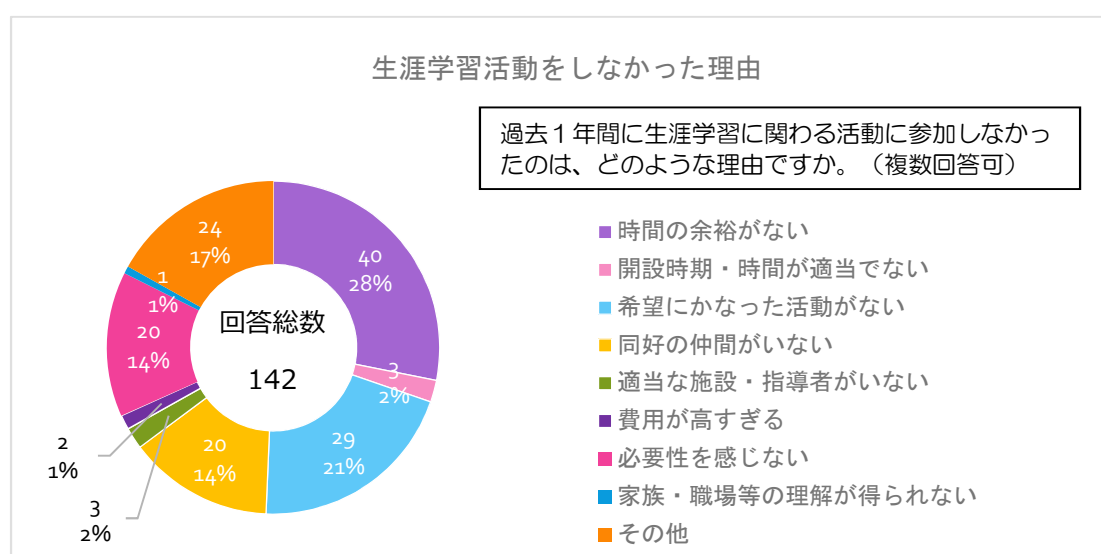
地域の人材発掘と養成

公民館が実施する各教室では、幅広い年代の受講生が参加し、知識や教養を身につける活動に取り組んでいます。そうした受講者が、身につけた知識等を生かし、指導者としての自立した活動につなげていくことが重要です。

一方で、アンケートにおいて、過去1年間で生涯学習に関わる活動をしていない方にその理由を聞いたところ、「時間に余裕がない」が圧倒的多数であり、続いて「希望にかなった活動がない」、「同好の仲間がいない」、「必要性を感じない」との回答が多く挙げられました。

公民館等の社会教育施設等においては、子育てや仕事を抱える20代から50代までの方にも参加しやすい講座等を企画し、より多くの方が社会教育施設を利用し、学習につながるよう努めます。

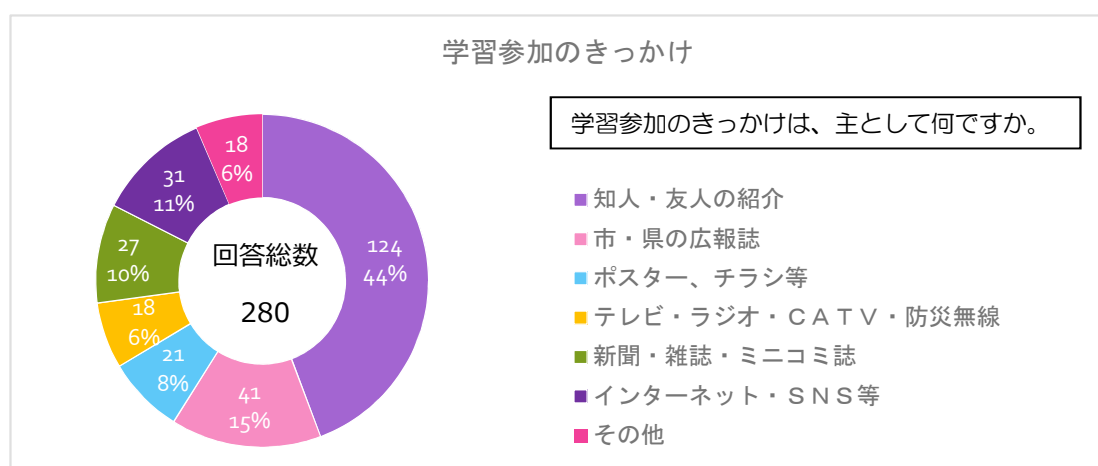
また、高齢者をはじめ、多くの経験・知識・技能を有する人々を発掘し、その経験等を生かし、コミュニティ活動への積極的な参加を促す機会を設けることで、次世代の育成、地域課題の解決等につなげていくなど、地域の中の新たな人材の掘起しを推進していきます。



生涯学習の情報発信

市民が学習意欲を高め、自分に適した学習機会を選択するためには、適切な情報発信を行うことが必要です。

アンケートによると、学習に参加するきっかけとして、知人・友人の紹介が半数程度を占めている一方、市・県の広報誌やインターネット等という回答も多くありました。こうした広報ツールを活用し、生涯学習に取り組むことができる機会の情報提供を図ります。また、生涯学習につながる各種講座、行事等について、広報はぎ、ホームページ、コミュニティFM等の各種メディアを通じ、広く情報発信するとともに、生涯学習のまちづくりメニューの充実や、公民館だより等の情報誌の発行により、市民の学ぼうとする意識を、生涯学習への参加につなげていきます。



地域づくりの推進

自らの地域の課題解決に地域が主体的に取り組んでいくためには、地域コミュニティを構成する地域住民が、自助・共助の精神で協働して課題解決に向かうことが重要となります。

そうした地域コミュニティにおける機運の醸成を図るため、各地域のコミュニティ協議会、ふるさとづくり協議会等の活動支援を行うとともに、地域外のNPO、企業、大学等と連携し、地域の良さを生かした新しい価値の創出など、新たな取組によるコミュニティ活動の活性化を支援します。

地域活動の拠点である公民館について、地域に根ざし、地域住民に寄り添う場となるよう、その活用方法などを地域と行政が協働して検討し、共により良い公民館運営を目指します。

地域学習の推進

地域の諸課題について、地域に住むものとして主体的に解決に向け取り組んでいくことは、地域コミュニティの適切な運営や活性化において、欠くことのできないものです。市民ひとりひとりが、自分の住む地域に真摯^{しんし}に向き合い、地域社会の構成員として社会に関わっていく機運の醸成には、社会教育の取組が重要な役割を担うことになります。

自分が生まれ育ち、暮らしている地域の歴史、文化、自然、産業等についての学習は、地域の抱える課題を学ぶことでもあり、まちづくりへの参画のきっかけとなります。こうした

きっかけを多く創出するためにも、公民館における講座等をはじめ、地域について学習する機会の充実に努めます。

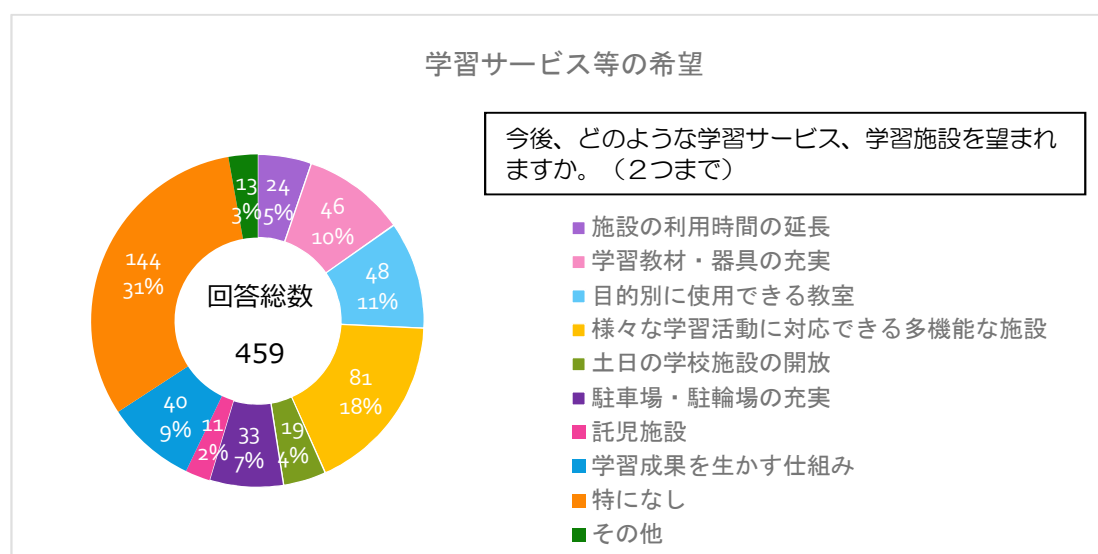
地域文化の継承及び保護・活用

地域の中で受け継がれ、守られてきた文化や伝統、そして文化財を次代に継承し、保護していくためには、地域コミュニティが継承の場としての機能を十分に発揮することが不可欠です。地域の各団体が連携し、継承・保存に係る活動に積極的に取り組んでいくことができるよう、社会教育の立場からこれらの活動を支援します。

市民協働による生涯学習の環境づくりの推進

市内では多くの生涯学習グループが活動していますが、高齢化が進み、活動を維持することが困難なグループもある状況です。

学習成果を活動に生かし、発表する場を設けることは、個人の自己実現や新たな学習活動への着手につなげていくために重要であることから、各生涯学習グループと連携し、その活動の継続を支援するとともに、アンケートの結果を踏まえ、ニーズに沿った学習及び学習成果の発表の場として、公民館等の社会教育の施設について、バリアフリー化等の整備を図るなど、生涯学習グループが利用しやすい環境整備に取り組んでいきます。

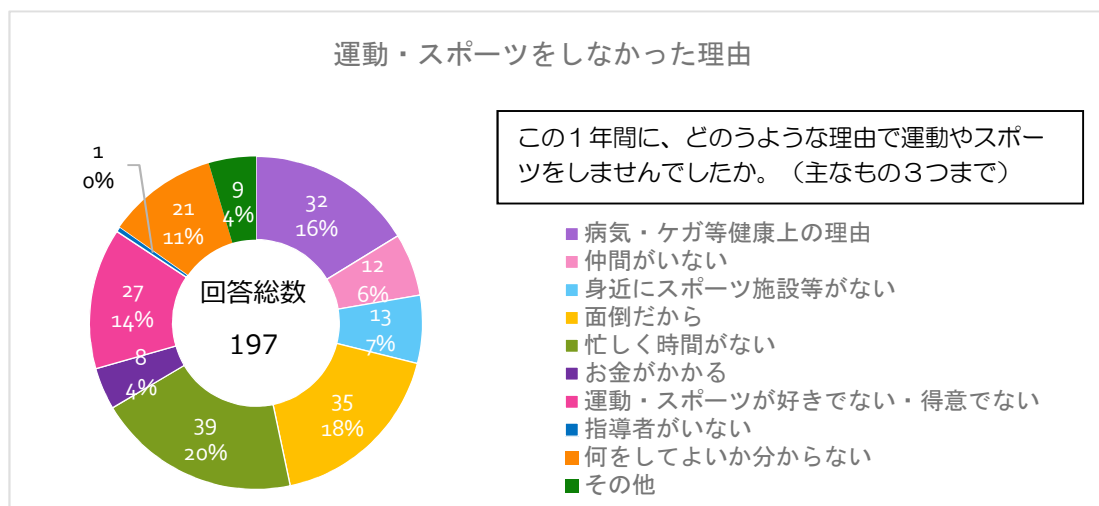
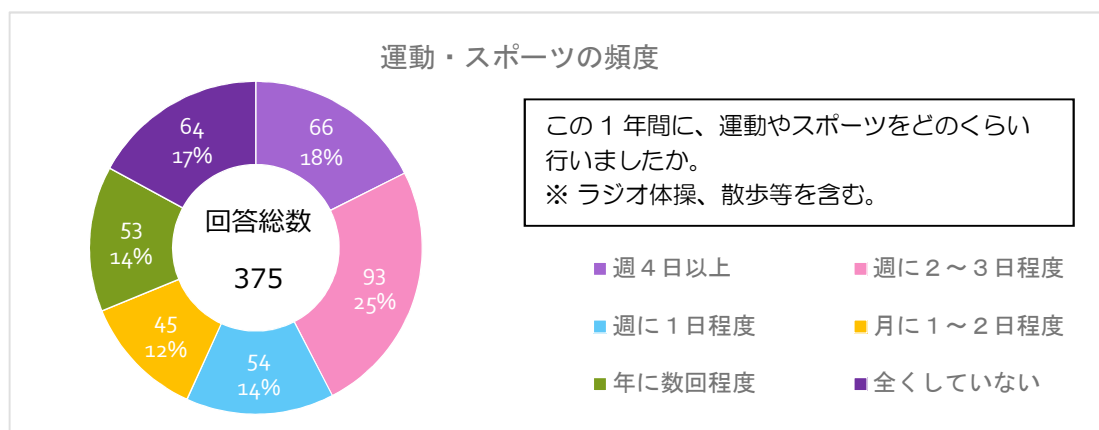


生涯学習の運営体制の充実を図るため、社会教育委員会、公民館運営協議会等を開催し、市民と協働して生涯学習に係る課題や解決策を協議し、共に生涯学習の推進に努めていきます。組織の枠組みを超え、自治会、NPO、ボランティア団体等と連携するとともに、市民とも役割を分担した生涯学習体制の構築を目指し、市民ひとりひとりが生涯学習に積極的に関わろうとする機運の醸成を図っていきます。

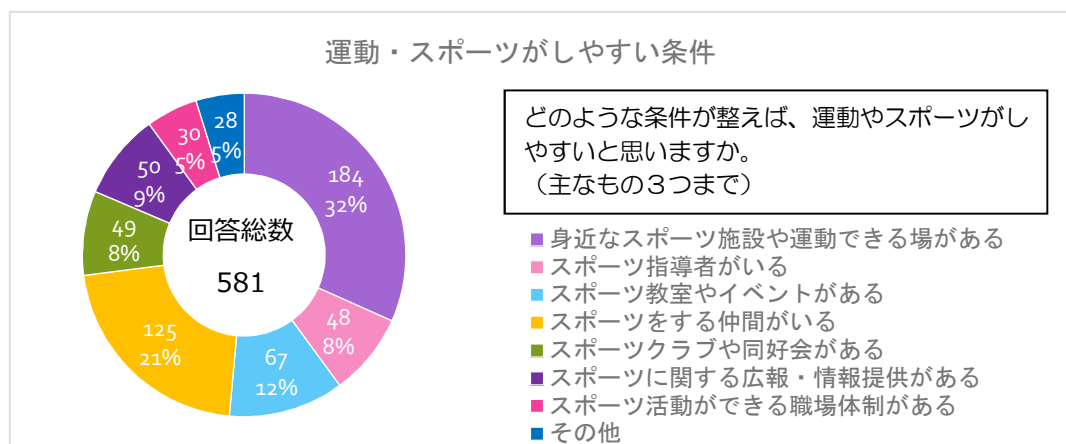
生涯スポーツの推進

競技スポーツのほか、ウォーキング、体操等の身近な運動をはじめ、自分に合ったスポーツを主体的に行うことで、いきいきと暮らせるまちづくりを目指します。

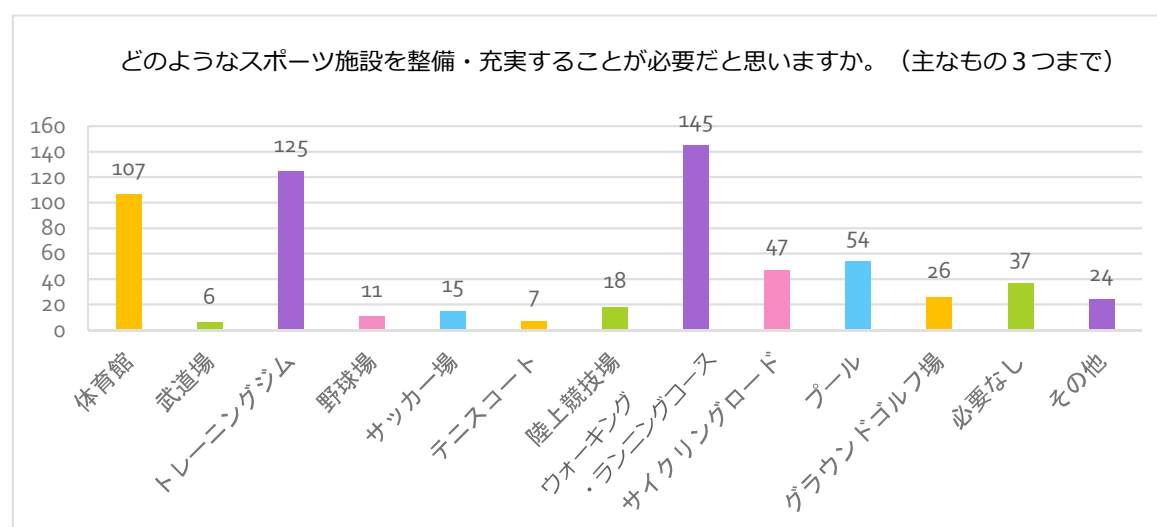
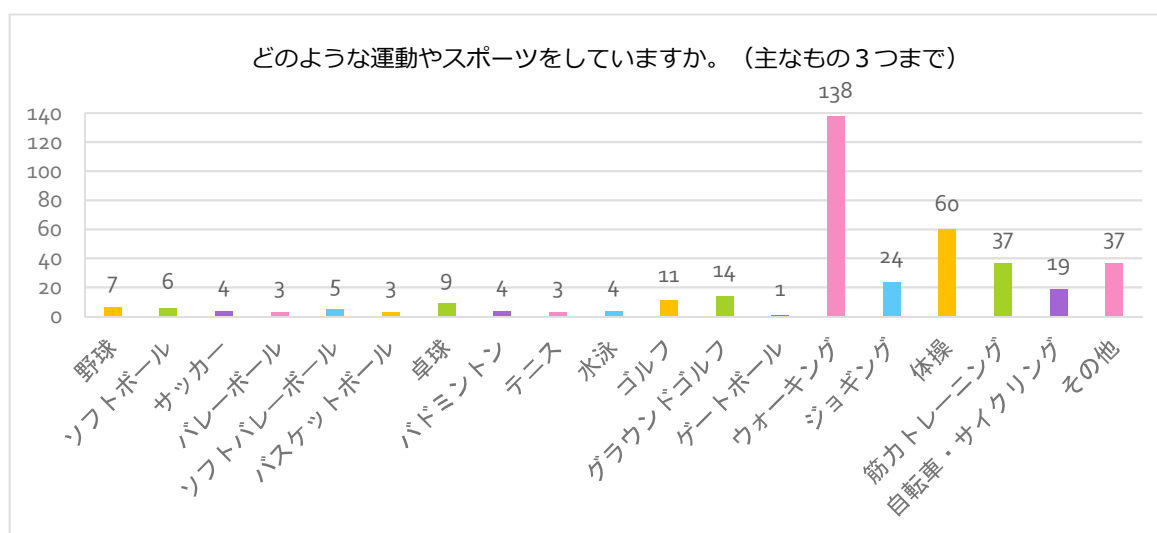
アンケート調査によると、スポーツを行う頻度について、週に1日以上運動やスポーツをする成人の割合は、56.8%となっており、平成24年度の調査（23.7%）に比べ、大幅に増加しています。その一方で、「全くしていない」、「年に数回程度」と回答した市民の割合は、31.2%に及び、その理由として「忙しく時間がない」、「面倒だから」といった回答が多くなっています。スポーツや運動の習慣化には、こうした市民のスポーツ活動への意識改革が必要です。



また、どのような条件が整えば、運動やスポーツに取り組みやすいかということについては、「身近なスポーツ施設等があれば」、「仲間がいれば」とする回答が多くありました。身近に運動やスポーツが行える環境が整備されることのほか、共にスポーツに取り組む仲間づくりができる場や機会の提供が求められています。



この1年間に実施した運動・スポーツについては、「ウォーキング」がトップで、続いて「体操」、「筋力トレーニング」、「ジョギング」を実施したとする回答が多くなっています。また、スポーツ施設の整備・充実のニーズについても、競技人口に比例し「ウォーキング・ランニングコース」、「トレーニングジム」、「体育館」の順となっています。



スポーツにより健康及び体力を保持増進する活動が継続的に実施され、生涯を通じてスポーツに親しむことができるよう、市民ひとりひとりが自分に合ったスポーツや運動を選択し、身近な場所で取り組むことができる環境の整備・充実に努めるとともに、より多くの市民が

スポーツに関わることができるよう、市民のニーズをとらえたスポーツイベント・教室の開催など、気軽にスポーツに取り組める機会の充実を図ります。

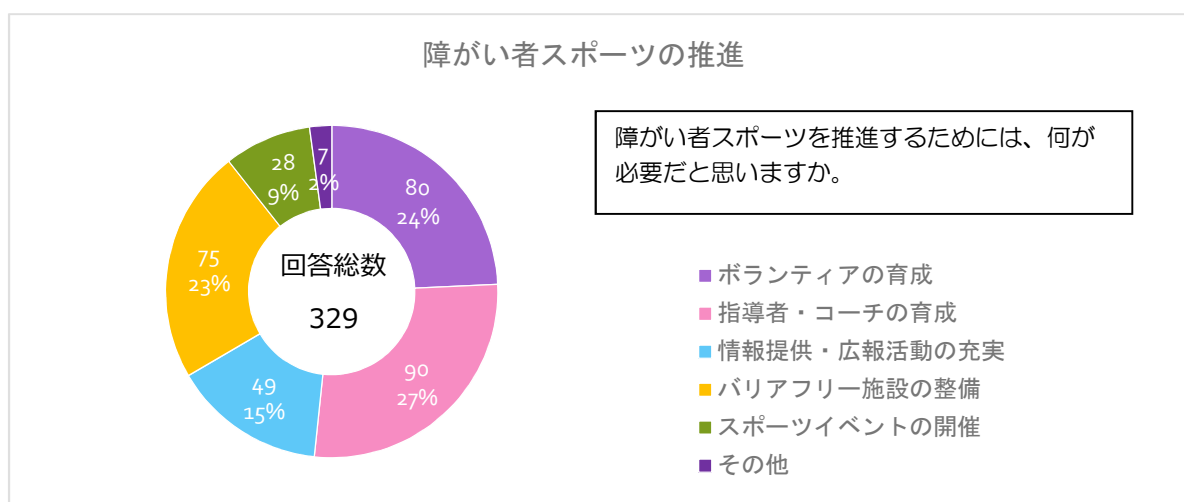
また、社会スポーツ団体等がスポーツを通じて、地域住民の健康増進、親睦等を図り、地域を活性化する活動を支援するとともに、市内のスポーツ団体により組織されている萩市体育協会及び萩市レクリエーション協会と連携し、市全体のスポーツ活動の充実と発展を目指します。

その他、スポーツに関心がない市民に対し、スポーツへの興味・関心を引き出すための普及・啓発活動にも取り組んでいきます。スポーツをする・みる・ささえるという3つの観点からスポーツに積極的に関わる取組を促進するとともに、スポーツイベント等スポーツに係る情報の発信、優秀なスポーツ選手や指導者との交流機会の提供など、スポーツに関心を持つきっかけづくりを推進していきます。

障がい者スポーツの推進

障がいの有無にかかわらず、自分に合った方法で誰もがスポーツに親しみ、いきいきと暮らせるまちづくりを目指し、障がいのある人々が気軽にスポーツに参加でき、スポーツ活動を通して生きがいを見つけ出すことができる環境づくりに取り組みます。

障がい者のスポーツ活動を適切にサポートすることができる指導者やボランティアの育成をはじめ、誰もが利用しやすいスポーツ施設とするためのバリアフリー化の推進に努めます。



また、東京パラリンピックの開催を契機に、障がいの有無にかかわらず、誰もが一緒に活動できるパラスポーツの魅力を生かし、様々な人が参加し、相互理解を深めることができる交流イベントを開催します。

そして、各種スポーツ大会への参加資格の拡大や競技種目の追加等により、幅広い年代の障がいのある人がスポーツ大会等へ参加できるよう取組を推進します。



公益社団法人山口県障害者スポーツ協会や萩市障害者スポーツ協会等と連携し、障がいのある人がスポーツに安心して気軽に取り組み、多くの人々と交流することができる機会の創出に努めていきます。

競技水準の向上

本市のスポーツ選手が、全国大会やオリンピック・パラリンピックなどの世界的なスポーツ競技会において活躍するとともに、活躍した選手が指導者として優れた選手を育成し、本市の競技水準の向上に貢献するといったスポーツ分野における好循環の構築を目指します。



中長期的な視点で、計画的に優秀な選手や指導者を育成するため、トップレベルの指導者や選手による指導・研修を受講できる機会を設けるなど、市内を拠点に活動する選手の育成強化に取り組むとともに、選手の活動支援に努めます。そして、指導者としての倫理・社会規範に関する意識の啓発を図るための研修会等を受講できる体制づくりに取り組みます。

本市を拠点に活動する選手をサポートするため、スポーツ活動の拠点となる体育施設を整備し、継続的にスポーツ活動ができるよう支援するとともに、安全性にも留意した設備を充実させます。

また、選手の競技力及び意識の向上を図り、並びに市民のスポーツに関する関心を高めるため、全国大会に出場する選手に対する激励会の開催及び激励金の交付や、全国大会等の大規模な競技会において、優秀な成績を収めた選手の顕彰を行います。

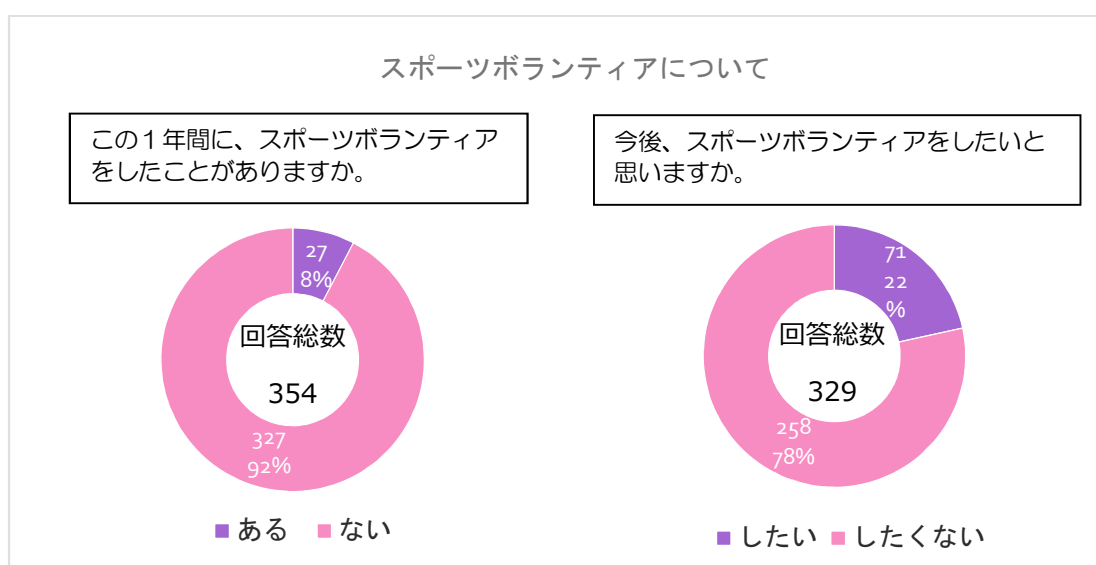
そのほか、スポーツ医・科学を活用し、専門家による選手の支援体制の充実及びスポーツ外傷等の予防により、競技力の維持・向上を図るとともに、やまぐちスポーツ医・科学サポ

ートセンターや大学等の専門研究機関と協力し、選手のトレーニング・メンタル・栄養指導をサポートする体制を整えます。

地域のスポーツを支える人材の育成

スポーツイベントの開催においては、ボランティアによる支えが重要であり、スポーツイベント等にボランティアとして参加しやすい環境を作るとともに、スポーツイベントや大会が魅力あるものとなるように努めます。

アンケート調査では、7.6%が「スポーツボランティアをしたことがある」と回答しています。また、「今後、スポーツボランティアをしたい」と回答した人が21.6%と、スポーツボランティア活動への関心が高いことがうかがえます。



スポーツ推進委員やスポーツボランティアに関心がある方を対象とした養成講習会等の開催やその情報提供を行うなど、スポーツを支える人材の育成に努めます。

また、東京オリンピック・パラリンピックをはじめとした世界大会等の開催を契機に、スポーツボランティア活動への参加に係る意識の高揚を図るとともに、広報はぎ、ホームページ等による情報発信、地域団体、学校、大学等との協力による新たなスポーツボランティアの育成に取り組みます。

スポーツの推進による交流人口の拡大及び地域の活性化

東京オリンピック・パラリンピックの開催をはじめ、大規模な国際大会の開催を契機として、カヌーをはじめ様々なスポーツの合宿誘致や、トップアスリートとの交流機会、スポーツイベントの開催等により、スポーツによる交流人口の拡大及び地域の活性化を図ります。

また、本市をスポーツ合宿地とした人々との継続的な交流を行い、スポーツ以外の分野においても交流活動の発展等に向けた取組に努めます。

地域、各種競技団体、行政が連携し、スポーツによるまちづくりを推進します。スポーツ・ツーリズム⁶を促進し、各種スポーツイベントを含めたコンベンション⁷を誘致するなど、地域の観光資源の開発を支援するとともに、本市のスポーツ振興の主要事業である萩城下町マラソン及び萩往還ワンデーウォークの開催のほか、萩ならではのスポーツイベントの開催に取り組んでいきます。



萩ジオパークを組み込んだサイクリングマップの作成等、山口県の推進する「サイクル県やまぐち project」の取組と連携し、サイクリングを快適に楽しめる環境整備を進めるほか、阿武川特設カヌー競技場を活用したカヌー教室や競技会の開催など、市内外から参加者を呼び込むことができるスポーツ活動を展開し、交流人口の拡大による地域の活性化に努めます。

⁶ スポーツ・ツーリズム：スポーツイベント等の観覧や参加を目的とした旅行と周辺観光を融合させ、交流人口の拡大や地域観光の振興等を目指す取組

⁷ コンベンション：大規模な集会や会議、催し

施策の方向ごとの主な取組

成人期のひとづくりに係る本市の主な事業や新たな取組等について、萩市ひとづくり構想の施策の方向ごとに掲載しています。

1 地域コミュニティ活動の推進

地域づくりの推進

① 協働による地域づくり

地域コミュニティ組織の充実、地域行事の開催

② 公民館の充実

市民協働による公民館運営の推進

③ 人権教育の推進

人権教育講座及び人権教育指導者養成講座の開催

地域の人材発掘と養成

① 人材発掘及び養成

公民館活動から自主活動への自立による人材育成、放課後子ども教室の指導者等の発掘

地域文化の継承及び保護・活用

① 地域に根ざした文化・芸術活動の推進

地域伝統行事の支援、文化・芸術団体への支援、萩市美術展の開催、公民館まつり、生涯学習作品展及び発表会の開催等

2 社会人の学び直しの推進

ニーズに合った学習機会の提供及び学習成果を発揮する機会の創出

① ニーズに合った学習機会の提供

公民館各種講座・教室の開催、自主講座の開催支援、未来を切り拓くひとづくりセミナーの実施、至誠館大学公開講座への支援等

② 学習成果を発揮する機会づくりの推進

公民館まつりの開催、学習発表会等の開催支援

③ 意思疎通支援者（手話奉仕員、要約筆記者等）の育成

手話奉仕員養成講座、要約筆記体験講座等の開催

④ 成人期の英語学習の支援

国際交流員等による英会話講座の開催等

地域スポーツを支える人材の育成

① スポーツ推進委員及びスポーツボランティアの資質・能力の向上

各種スポーツ団体との連携、研修会等を活用した人材の育成

② スポーツボランティアの育成

養成講習会等の開催と活動機会の提供

3 地場産業の担い手の育成

萩の伝統産業をはじめ、地域に根差した産業や地域の企業の次代を担う人材の育成を支援していきます。

若い世代の人々がものづくりなどの体験を通じて仕事に対する理解を深めてもらうようにするなど、担い手育成や地場産業への興味・関心を高める取組については、**地域産業振興構想**に掲げる基本方針に基づき、様々な施策を展開していきます。

地域産業振興構想では、その基本方針において、一次産業へのスムーズな就業を図るため、技術の習得や実際の作業体験の機会を提供するなど、担い手育成の取組に努めること、関係団体等と連携して円滑な事業承継のサポート体制の充実を図ること、伝統産業をはじめ、長年にわたり蓄積された技能・技術を伝承する事業者の持続的な成長を支え、次代を担う企業を育成すること等を定めています。

市内の中小企業等を継続的に支援する伴走型の相談所「萩市ビジネスチャレンジサポートセンターHagi-Biz」をはじめ、市内の企業や地場産業を支える取組を推進します。

4 起業家育成への支援

元気な地域産業を再生するために、市では、起業・創業を目指す人を支援する施策及び事業を展開しています。

新たな夢に向かい、その第一歩を踏み出そうとチャレンジする人々をサポートするため、**地域産業振興構想**に掲げる基本方針に沿って起業家育成に係る施策を推進します。

地域産業振興構想では、起業・創業、新事業展開の積極的な推進やチャレンジマインドを持った若者の起業活動を地域全体で支える仕組み（萩版イノベーション・エコシステム）の構築及び首都圏など市外の起業家との交流促進によるチャレンジマインドの醸成に努めていくこと等を定めています。

世代や職業、地域の枠を超えた多様な人材の交流を進め、チャレンジマインド旺盛なひとづくりに取り組む産業人材育成塾「熱中小学校萩明倫館」や「萩市ビジネスプランコンテスト」の開催、「萩市インキュベーションセンター」でのシェアオフィスの運営等により、市内での起業を促す取組を推進します。

5 生涯学習等の推進

高齢期の学習活動の推進

① 学習機会の充実

公民館高齢者教室、健康教室等の開催

② 高齢者の活動の場づくり

高齢者教室作品展の開催

地域学習の推進

① 地域・ふるさとを学ぶ機会の提供

萩ユネスコ協会文化講演会等の開催支援

生涯スポーツの推進

① スポーツ活動の機会充実と環境整備

市民スポーツ大会やウォーキング・マラソン大会の充実

スポーツ教室の充実に加え、新たにウォーキング・ランニング教室を開催

ウォーキング・ランニングコースの整備、市民体育館トレーニングジムの充実

障がい者スポーツの推進

① 障がい者スポーツの環境整備と支援

障がい者スポーツボランティア養成講習会の周知及び支援

競技水準の向上

① スポーツ選手・指導者の育成と強化体制の充実

全国大会等へ出場する選手の支援、指導者の資質向上のための研修会開催

生涯学習の情報発信

① 生涯学習に係る情報提供の充実

広報はぎ、ホームページ、コミュニティFM等の活用、公民館だより、生涯学習のまちづくりメニューの充実

6 地域共生社会づくりの推進

市民協働による生涯学習の環境づくりの推進

① 社会教育施設の充実

バリアフリー化の推進及び施設の点検・整備の推進、施設利用の適正化の検討

② 自主活動・市民活動の推進

公民館活動から自主活動への転換支援、生涯学習グループの活動支援等

③ 生涯学習運営体制の充実

社会教育委員会議、公民館運営協議会等の開催

④ 市民協働による生涯学習の推進

市民協働による地域イベントの開催、市民協働による社会教育施設の運営に向けた体制づくりの推進

スポーツの推進による交流人口の拡大及び地域の活性化

① スポーツ・ツーリズムの推進による各種スポーツイベントの開催

萩城下町マラソン、萩往還ワンデーウォーク等の開催

② スポーツ合宿の誘致

世界大会等のキャンプ地、実業団・大学運動部の合宿を誘致

5 事務の執行状況の点検・評価

計画の着実な推進のため、市民のニーズやひとづくりを取り巻く社会状況を把握するとともに、計画の進行状況やその成果について検証し、施策や取組内容等の適切な見直しを行うことが必要です。

このため、各施策の実施に当たっては、PDCAサイクルの考え方にに基づき、毎年度計画に基づく施策の実施状況や効果について、萩市ひとづくり構想推進委員会の意見をいただきながら、点検・評価を行い、その結果を踏まえ、より効果的な事業目標の達成に向け、施策内容等の見直し・改善を行い、翌年度以降の施策の展開に反映します。

また、毎年度の点検・評価に加え、計画期間の中間年と最終年には、本計画全体の見直し等を含めた進捗確認を行います。

本章では、毎年度実施する計画の点検・評価のための指標等を定め、当該指標等に基づく計画の進行管理を行います。

学校教育

1 小中学校における教育体制の充実及び児童生徒の学力の向上

(1) 小中一貫教育の推進

- ① 小中連携カリキュラムを作成している中学校区 100%

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現・複式指導の充実

- ① 全国学力・学習状況調査実施全教科において全国平均を上回る。

(3) いじめ、不登校、暴力行為等への対応

- ① いじめの解消率 100%
- ② 不登校、暴力行為の出現率・発生率の減少

2 小中学校における児童生徒の体力の向上

(1) 基礎体力の向上

- ① 体力についての課題改善に、全校的に取り組む学校の割合 100%

(2) 望ましい生活習慣の形成

- ① 毎日、同じ時刻に寝る子ども（定時就寝）の割合 50%以上

3 児童生徒の英語教育の充実

- ① 中学校卒業時に英検3級以上に合格した生徒の割合 50%以上

4 志教育の推進と地域とともにある学校づくり

(1) キャリア教育の推進

- ① 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合の向上
- (2) コミュニティ・スクールの充実
 - ① 地域の行事に参加する児童生徒の割合の向上
- (3) ふるさと学習の展開
 - ① 地域の自然・歴史・文化・産業・人材を活用した学習を実施する学校の割合
100%

5 教育環境の整備

- (1) 学校施設整備・充実
 - ① 学校トイレの洋式化率（児童生徒20人当たり洋式便器数1.0以上） 100%
 - ② 学校施設照明のLED化率 100%
 - ③ 児童生徒1人1台PC端末の整備率 100%
- (2) 安心安全な学校給食の提供
 - ① 県産食材使用率 70%以上

6 市内高等学校の魅力化支援

- (1) 地元の高校へ進学しやすい環境の整備
 - ① 萩市内中学生の萩圏域の高等学校への進学率 80%

社会教育

1 生涯学習の基礎づくり

- (1) 家庭教育力の向上
 - ① 親学講座、子育て講座、保護者カフェの開催 実施回数 年間70回以上
参加者数 年間2,200人以上
 - ② 子ども情報誌「あ.そ.ぼ。」の発行回数 年間6回以上
(未満児から中学校までの子ども及びその保護者を対象)
 - ③ NPO萩子どもセンター事業への支援 実施事業 年間165回以上
- (2) 地域文化の継承及び保護・活用
 - ① 伝統芸能フェスティバルの開催 出演団体数 11団体以上
来場者数 300人以上

(3) 市民協働による生涯学習の環境づくりの推進

① 社会教育施設の充実

公民館等施設の整備に係る整備内容の公表の実施

② 自主活動・市民活動の推進

合同作品発表会の開催 出展団体数 15団体以上

③ 生涯学習運営体制の充実

社会教育委員会議の開催 実施回数 年間3回以上

公民館運営審議会の開催 実施回数 年間25回以上

④ 市民協働による生涯学習の推進

公民館まつり等の開催 参加者数 年間12,000人以上

公民館運営審議会の開催 実施回数 年間25回以上【再掲】

2 生涯学習の場とひとづくり

(1) ニーズに合った学習機会の提供及び学習成果を発揮する機会の創出

① 公民館各種講座の開催 実施回数 年間450回以上

② 至誠館大学との共同講座の開催 実施回数 年間5回以上

(2) 青少年の生涯学習の推進

① 未来を切り拓くひとづくりセミナーの開催 来場者数 年間1,000人以上

② 放課後子ども教室の開催 実施回数 年間1,150回以上

③ ユースふれあいスペース事業の実施 実施回数 年間130回以上

(3) 高齢期の学習活動の推進

① 高齢者教室・健康教室の開催 実施回数 年間170回以上

② 高齢者教室作品展の開催 出展作品数 120点以上

(4) 地域の人材発掘と養成

① 放課後子ども教室の開催 指導者登録数 年間170人以上

(5) 生涯学習の情報発信

① 広報はぎ、公民館だより、FMはぎ等による情報発信の実施

公民館だよりの発行回数 年間110回以上

3 生涯学習によるまちづくり

(1) 地域づくりの推進

- ① 婦人会事業への支援 実施事業 年間 11 回以上
- ② 公民館運営審議会の開催 実施回数 年間 25 回以上【再掲】
- ③ 人権教育講座及び人権教育指導者養成講座の開催 実施回数 年間 22 回以上

(2) 地域学習の推進

- ① 萩ユネスコ協会文化講演会の開催 来場者数 年間 100 人以上

(3) 青少年の地域に関わる体験活動等の推進

- ① ジュニアリーダーズクラブ事業の開催 実施回数 年間 10 回以上
- ② 家庭の日カレンダーの小中学校への配布

小学校新入生への家庭の日クリアファイル配布率 100%

- ③ 親学講座、子育て講座、保護者カフェの開催 実施回数 年間 70 回以上 【再掲】
参加者数 年間 2,200 人以上 【再掲】

- ④ 放課後子ども教室を開催する小学校の割合 100%

子ども会事業への支援 実施事業 年間 25 回以上

(4) 地域協育ネットの推進

- ① 伝統芸能・地域文化教室を実施する小学校の割合 100%
- ② 親学講座、子育て講座、保護者カフェの開催 実施回数 年間 70 回以上 【再掲】
参加者数 年間 2,200 人以上 【再掲】
- ③ 放課後子ども教室の開催 実施回数 年間 1,150 回以上【再掲】
- ④ 地域協育ネット活動を実施する中学校区の割合 100%

スポーツ

1 生涯スポーツの推進

(1) 幼児期の体力の向上

- ① 総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団に係る周知（広報掲載等） 年 1 回以上

(2) 生涯スポーツの推進

- ① 週 1 回以上スポーツをする成人の割合 65%以上

② 体育施設の年間利用者数 400,000人以上

(3) 障がい者スポーツの推進

① 障がい者スポーツボランティアの参加者数 年間累計100人以上

2 競技水準の向上

① 全国大会等へ出場する選手 年間85件以上

3 人材の育成

(1) 将来のスポーツ活動を担う人材の育成

① 小学4～6年生のスポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブ等加入率 40%以上

(2) 地域のスポーツを支える人材の育成

① スポーツボランティアの参加者数 年間累計1,600人以上

4 スポーツの推進による交流人口の拡大及び地域の活性化

① スポーツイベントの参加者数 年間累計6,000人以上

その他

1 子どもの読書活動に係る推進状況等の検討

萩市子ども読書活動推進計画に基づく取組については、萩市立図書館協議会により推進状況等を検討するとともに、萩市子ども読書活動推進委員会のネットワークを活用し、具体的な施策を展開します。

また、地方教育行政の組織および運営に関する法律の規定による教育委員会の権限に属する事務の点検及び評価については、計画に基づく評価項目により、萩市ひとづくり構想推進委員会の知見を活用し、点検・評価を行います。

2 子ども・子育て支援事業に係る計画の推進体制

子ども・子育て支援事業については、萩市子ども・子育て支援事業計画に基づく具体的な施策を展開し、子ども・子育て会議による計画の進捗状況等の総合的な進行管理を行うとともに、当該会議の意見を施策の見直し・改善等に反映します。

また、児童館における事業計画や運営状況を萩市児童館運営委員会に諮り、当該委員会の知見を活用することで、本市の子育て拠点施設としての機能を十分に発揮し、各事業が円滑に推進されるよう努めます。

3 地場産業の担い手育成・起業家育成に係る総合的な進行管理

地域産業振興構想において定める地場産業の担い手育成及び起業家育成については、萩市産業戦略本部において、当該構想の着実な推進のため、総合的な進行管理を行います。

進行管理には、施策や事業の改善を図るPDCAサイクルを取り入れ、実施した施策・事業の進捗状況や効果について客観的に評価・検証を行い、必要に応じて軌道修正を図ること、着実な推進を目指します。

主な指標に係る現状値

※ 行頭数字は、本章各分野（40～44 ページ）の関連する指標の項目番号です。

学校教育

- 1 (1) 小中連携カリキュラムを作成している中学校区 新規
 - (2) 全国学力・学習状況調査の状況（H31 年度）
 - ・小学校正答率：国語 68%（全国 63.8%）、算数 68%（全国 66.6%）
 - ・中学校正答率：国語 75%（全国 72.8%）、数学 63%（全国 59.8%）、
英語 55%（全国 56%）
 - (3) いじめの解消率（H30 年度） 小学校 98%、中学校 97.6%
児童生徒 100 人当たりの不登校・暴力行為の件数（H30 年度）
 - ・小学校：不登校 0.48 件、暴力行為 1.06 件
 - ・中学校：不登校 2.51 件、暴力行為 3.12 件
- 2 (1) 体力についての課題改善に、全校的に取り組む学校の割合（H30 年度） 100%
 - (2) 定時就寝の割合（H30 年度） 小学校 38.5%、中学校 41.9%
- 3 中学校卒業時に英検 3 級以上に合格した生徒の割合（H30 年度） 28.8%
- 4 (1) 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合（H30 年度）
小学校 88.0%、中学校 78.5%
 - (2) 地域の行事に参加する児童生徒の割合（H30 年度）
小学校 83.2%、中学校 76.5%
 - (3) 地域の自然等を活用した学習を実施する学校の割合 新規
- 5 (1) 学校トイレの洋式化率（児童生徒 20 人当たり洋式便器数 1.0 以上）（R1.5.1 現在）
76.47%
学校施設照明の LED 化率（R1.5.1 現在） 5.88%
児童生徒 1 人 1 台 PC 端末の整備率（R1.12.1 現在） 18.9%
 - (2) 学校給食県産食材使用率（H30 年度） 70.7%
- 6 (1) 萩市内中学生の萩圏域の高等学校への進学率（平成 31 年 3 月市内中学校卒業生）
72.6%

社会教育

- 1 (1) 親学講座・子育て講座の実施回数 (H30 年度) 年間 7 0 回
参加者数 (H30 年度) 年間累計 2, 0 0 8 人
子ども情報誌「あそぼ」の発行回数 (H30 年度) 年間 6 回
NPO 萩子どもセンター事業の実施回数 (H30 年度) 年間 1 6 3 回
- (2) 伝統芸能フェスティバルの出演団体数 (H30 年度) 1 1 団体
来場者数 (H30 年度) 3 0 0 人
- (3) 合同作品発表会の出展団体数 (R1 年度) 1 5 団体
社会教育委員会議の実施回数 (H30 年度) 年間 3 回
公民館運営審議会の実施回数 (H30 年度) 年間 2 5 回
公民館まつり等の参加者数 (H30 年度) 年間累計 1 2, 4 4 0 人
- 2 (1) 公民館各種講座の実施回数 (H30 年度) 年間 4 7 8 回
至誠館大学との共同講座の実施回数 (H30 年度) 年間 5 回
- (2) 未来を切り拓くひとづくりセミナーの来場者数 (R1 年度) 累計 4 0 0 人
放課後子ども教室の実施回数 (H30 年度) 年間 1, 1 0 4 回
ユースふれあいスペース事業の実施回数 (H30 年度) 年間 1 2 6 回
- (3) 高齢者教室・健康教室の実施回数 (H30 年度) 年間 1 6 5 回
高齢者教室作品展の出展作品数 (R1 年度) 1 1 4 点
- (4) 放課後子ども教室の指導者登録数 (R1 年度) 1 6 6 人
- (5) 公民館だよりの発行回数 (H30 年度) 年間 1 1 1 回
- 3 (1) 婦人会事業の実施回数 (H30 年度) 年間 1 1 回
- (2) 人権教育講座及び人権教育指導者養成講座の実施回数 (R1 年度) 年間 2 2 回
萩ユネスコ協会文化講演会の来場者数 (H30 年度) 年間累計 1 4 3 人
- (3) ジュニアリーダーズクラブ事業の実施回数 (H30 年度) 年間 1 0 回
小学校新入生の家庭の日クリアファイル配布率 (R1 年度) 1 0 0 %
放課後子ども教室を実施する小学校の割合 (R1 年度) 1 0 0 %
子ども会事業の実施回数 (H30 年度) 年間 2 4 回
- (4) 伝統芸能・地域文化教室を実施する小学校の割合 (R1 年度) 1 0 0 %
地域協育ネット事業を実施する中学校区の割合 (R1 年度) 1 0 0 %

スポーツ

- 1 (1) 総合型地域スポーツクラブ等の広報掲載 (H30 年度) 0 回
(2) 週 1 回以上スポーツをする成人の割合 (R1 年度調査) 56.8%
体育施設の年間利用者数 (H30 年度) 362,775 人
(3) 障がい者スポーツボランティアの参加者数 (R1 年度) 年間累計 75 人
- 2 全国大会等へ出場する選手 (H30 年度) 年間 82 件
- 3 (1) 小学 4 ～ 6 年生のスポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブ等加入率 (R1.9.1 現在) 41%
(2) スポーツボランティアの参加者数 (H30 年度) 年間累計 1,385 人
- 4 スポーツイベントの参加者数 (H30 年度) 年間累計 5,700 人

6 参考資料

資料1：萩市ひとづくり推進計画の各分野の推進項目と萩市ひとづくり構想の施策の方向との関係

萩市ひとづくり推進計画の推進項目等一覧

学校教育：6つの項目	構想・施策の方向
1 小中学校における教育体制の充実及び児童生徒の学力の向上	⇒ 青少年期①
2 小中学校における児童生徒の体力の向上	⇒ 青少年期①
3 児童生徒の英語教育の充実	⇒ 青少年期④
4 志教育の推進と地域とともにある学校づくり	⇒ 青少年期②③
5 教育環境の整備	⇒ 青少年期①
6 市内高等学校の魅力化支援	⇒ 青少年期⑤

社会教育：3つの観点（12の項目）	構想・施策の方向
1 生涯学習の基礎づくり	
（1）家庭教育力の向上	⇒ 幼児期①
（2）地域文化の継承及び保護・活用	⇒ 成人期①
（3）市民協働による生涯学習の環境づくりの推進	⇒ 成人期⑥
2 生涯学習の場とひとづくり	
（1）ニーズに合った学習機会の提供及び学習成果を発揮する機会の創出	⇒ 成人期②
（2）青少年の生涯学習の推進	⇒ 青少年期①
（3）高齢期の学習活動の推進	⇒ 成人期⑤
（4）地域の人材発掘と養成	⇒ 成人期①
（5）生涯学習の情報発信	⇒ 成人期⑤
3 生涯学習によるまちづくり	
（1）地域づくりの推進	⇒ 成人期①
（2）地域学習の推進	⇒ 成人期⑤
（3）青少年の地域に関わる体験活動等の推進	⇒ 青少年期②
（4）地域協育ネットの推進	⇒ 青少年期③

スポーツ：4つの観点（7つの項目）	構想・施策の方向
1 生涯スポーツの推進	
（1）幼児期の体力の向上	⇒ 幼児期②
（2）生涯スポーツの推進	⇒ 成人期⑤
（3）障がい者スポーツの推進	⇒ 成人期⑤
2 競技水準の向上	⇒ 成人期⑤
3 人材の育成	
（1）将来のスポーツ活動を担う人材の育成	⇒ 青少年期①
（2）地域のスポーツを支える人材の育成	⇒ 成人期②
4 スポーツの推進による交流人口の拡大及び地域の活性化	⇒ 成人期⑥

その他	構想・施策の方向
萩市子ども・子育て支援事業計画	⇒ 幼児期①②④
萩市子ども読書活動推進計画	⇒ 幼児期③
地域産業振興構想	⇒ 成人期③④

資料２：萩市民の生涯学習・スポーツ活動調査について（アンケート調査結果）

本計画の策定に係る基礎資料とするため、生涯学習及びスポーツ活動に関する市民の皆様の取組や思いを伺うアンケートを次のとおり実施しました。

1 調査対象

- (1) 対象：萩市内に住所を有する１９歳以上の者
- (2) 標本数：１，０００人
- (3) 抽出方法：無作為抽出

2 調査期間

令和元年１０月９日～１１月８日

3 調査方法

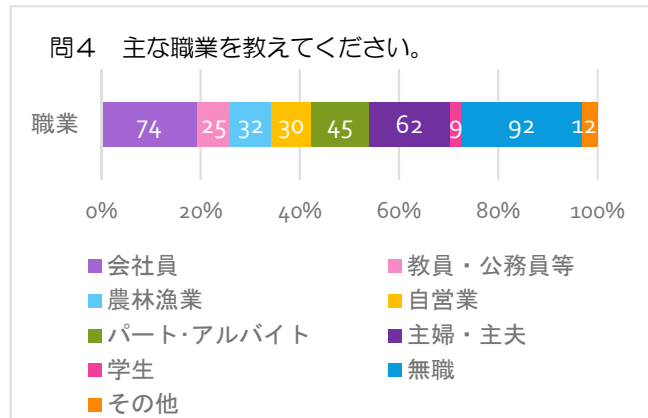
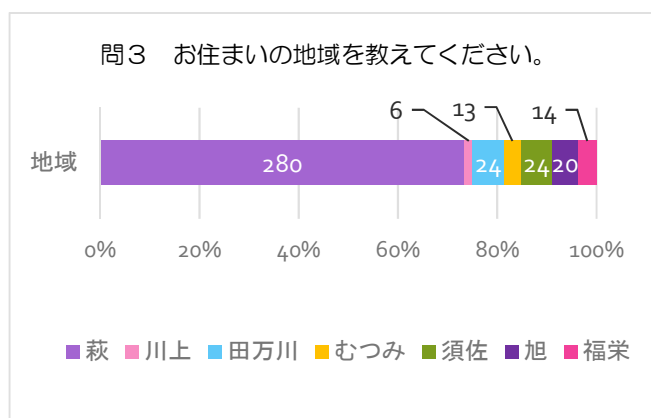
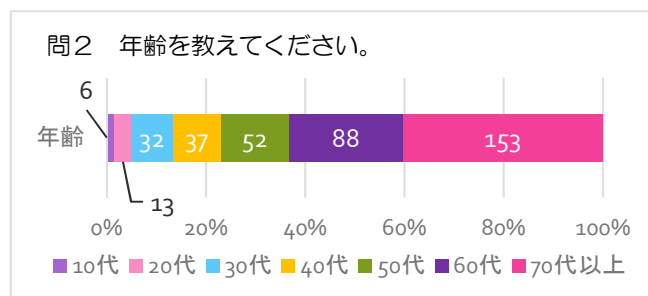
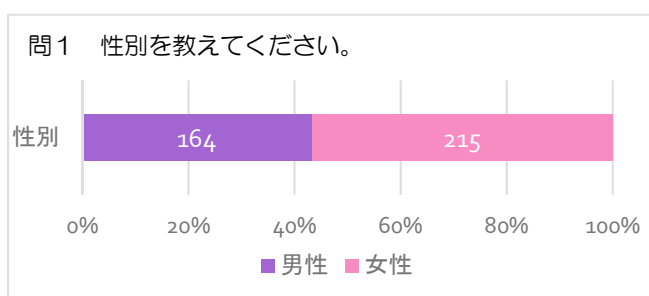
アンケート用紙の郵送による調査

4 回収結果

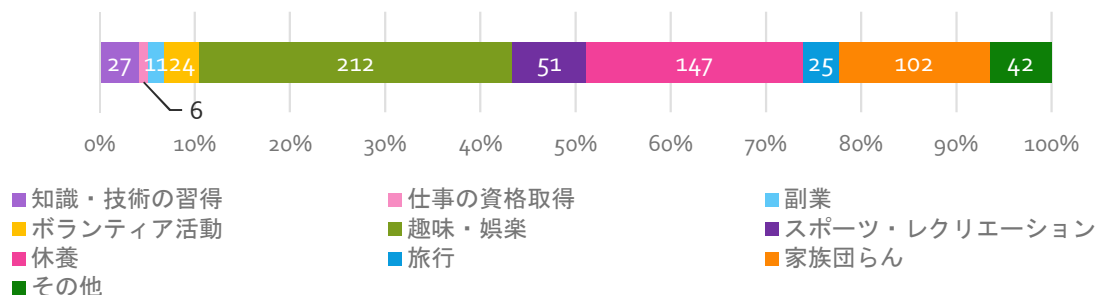
有効回収数３８１人

有効回収率３８．１％

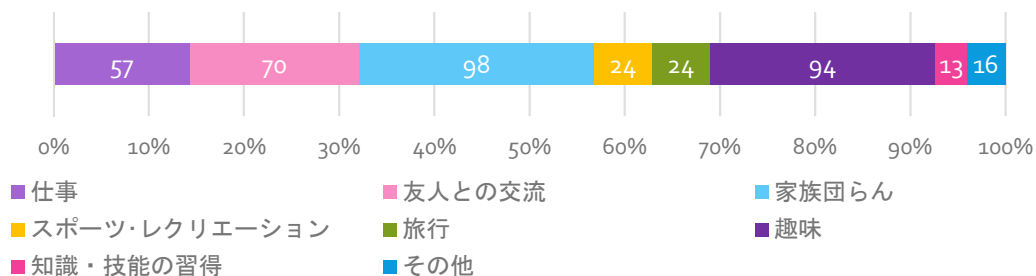
【質問及び調査結果】



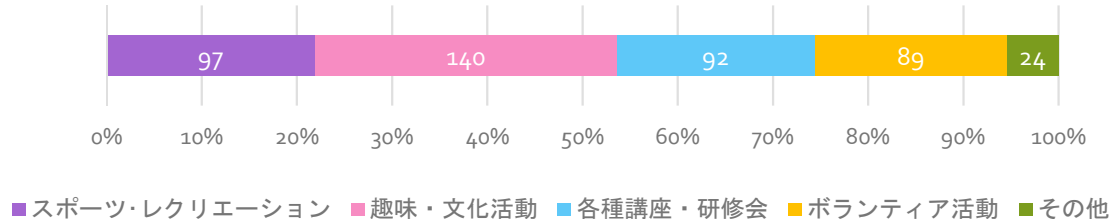
問5 自由時間は主として、なにに使われていますか。（2つまで）



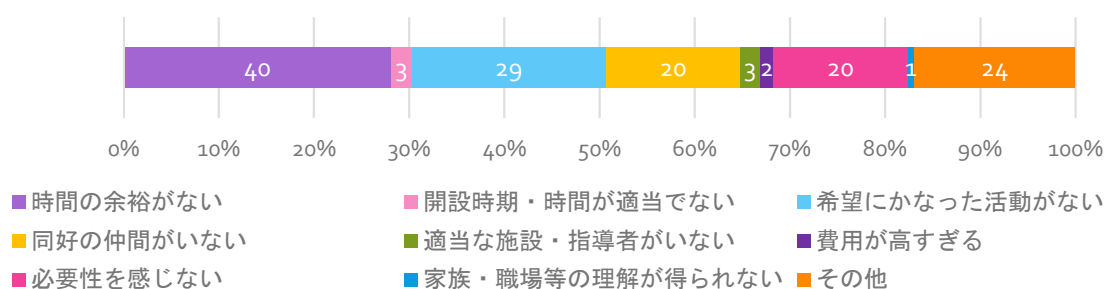
問6 日常生活で一番充実感を得られるのは、どんなことをしたときですか。



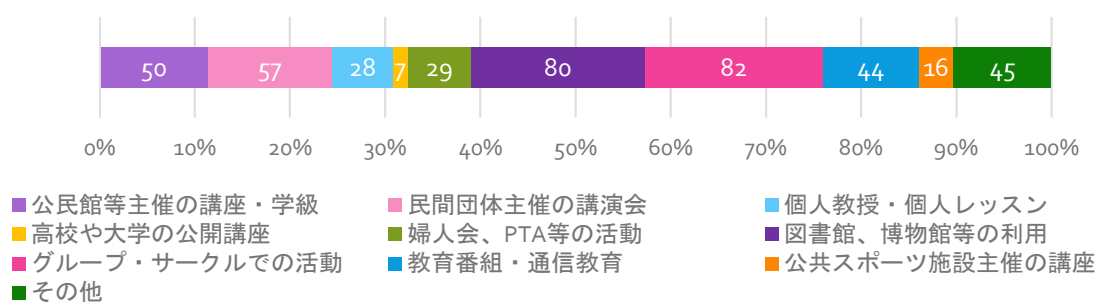
問7 過去1年間に、どのような活動に参加されましたか。（複数回答可）



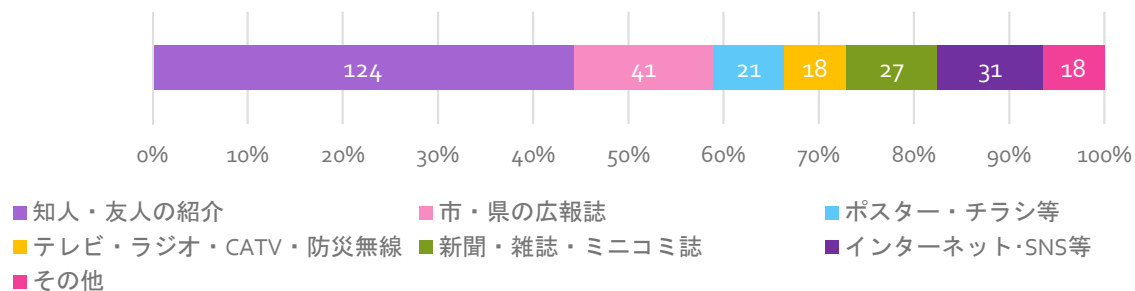
問8 （問7で1つも該当がない方）それはどのような理由ですか。（複数回答可）



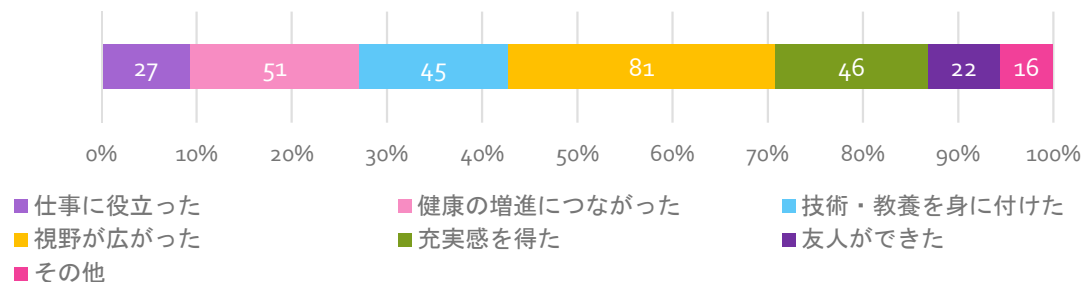
問9 日常、学習活動をされる場合、どのような方法でされますか。（2つまで）



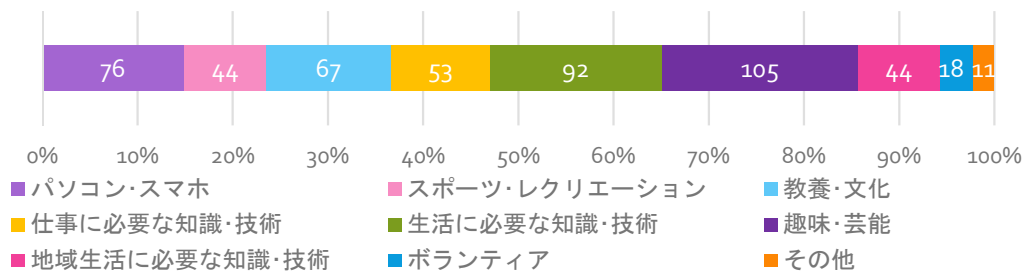
問１０ 学習参加のきっかけは、主として何ですか。



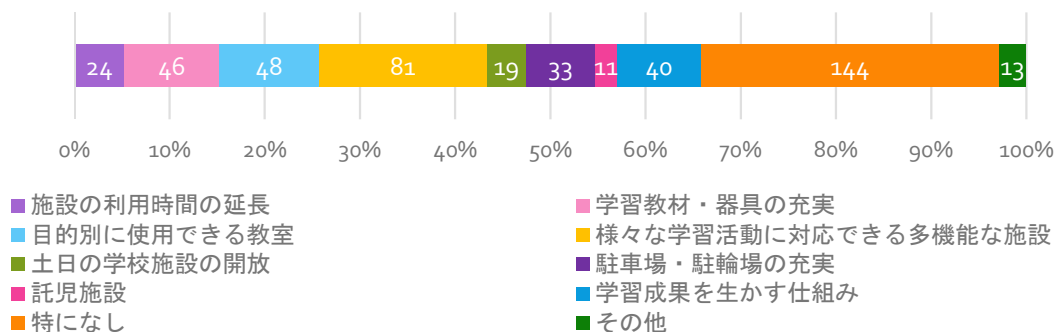
問１１ 学習に参加してよかったと思う点は、主にどのようなことですか。



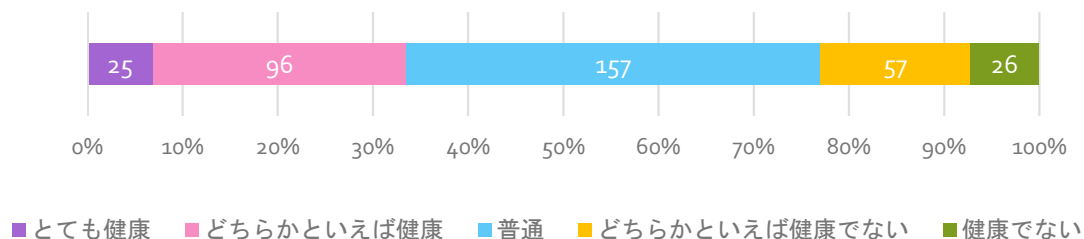
問１２ 今後、どのようなことを学習したいですか。（２つまで）



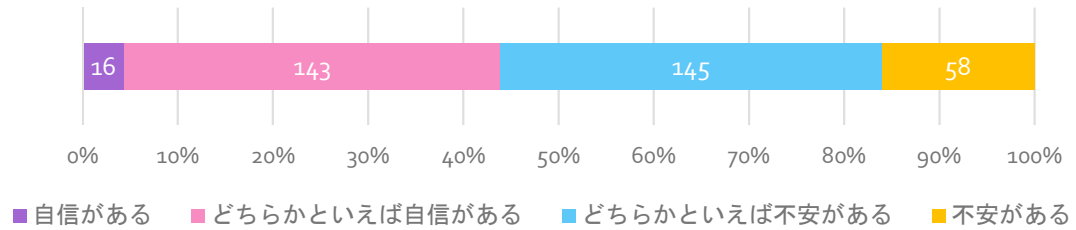
問１３ 今後、どのような学習サービス、学習施設を望まれますか。（２つまで）



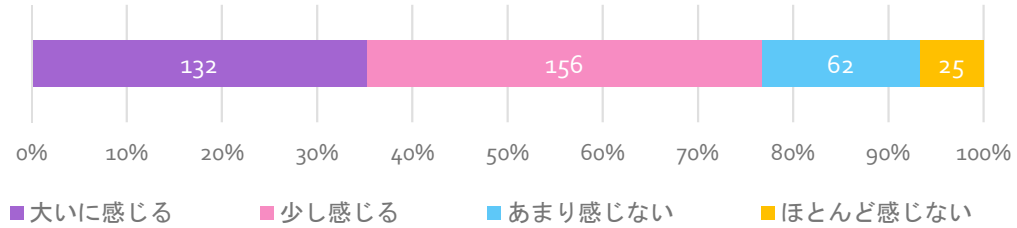
問１４ ご自身の健康をどのように感じていますか。



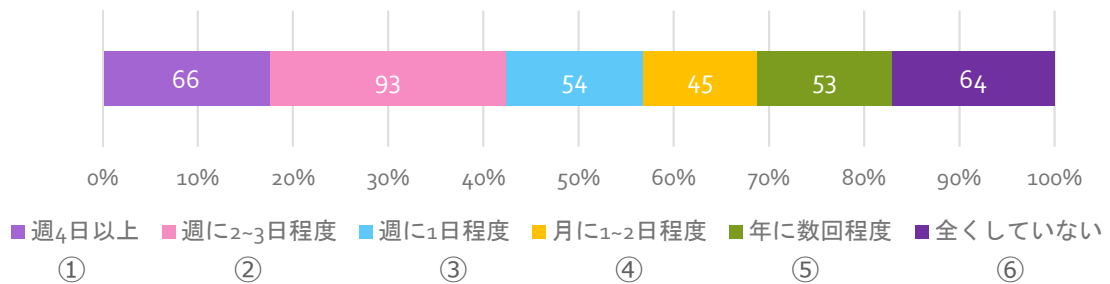
問15 ご自身の体力をどのように感じていますか。



問16 運動不足を感じていますか。



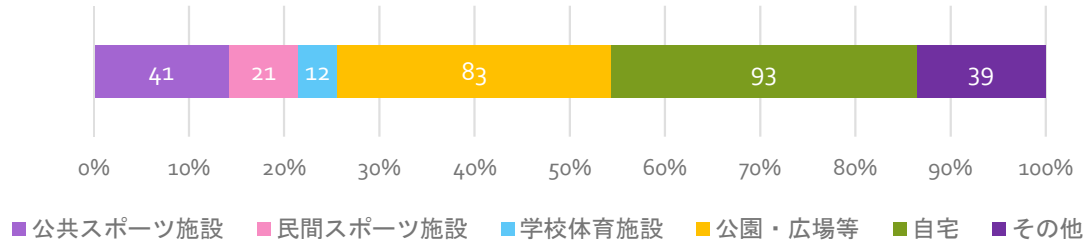
問17 この1年間に、運動やスポーツをどのくらい行いましたか。 ※ ラジオ体操、散歩等を含む。



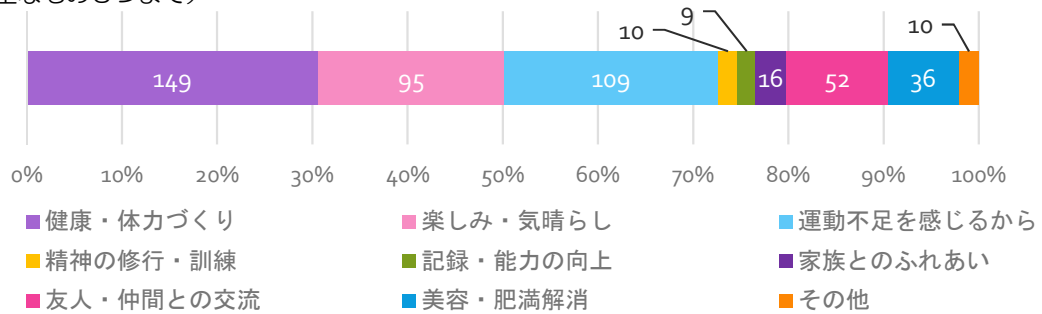
問18 (問17で①~④と回答した方) どのような運動やスポーツをしていますか。(主なもの3つまで)

スポーツ	回答数	スポーツ	回答数
野球	7	ゴルフ	11
ソフトボール	6	グラウンドゴルフ	14
サッカー	4	ゲートボール	1
バレーボール	3	柔道	0
ソフトバレーボール	5	剣道	0
バスケットボール	3	ウォーキング	138
卓球	9	ジョギング	24
バドミントン	4	体操	60
テニス	3	筋力トレーニング	37
水泳	4	自転車・サイクリング	19
その他	37		

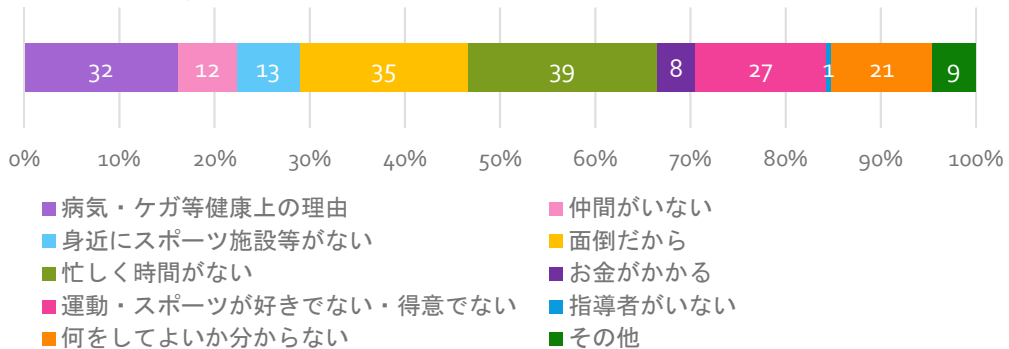
問19 (問17で①～④と回答した方) 運動やスポーツはどこでしていますか。(主なもの2つまで)



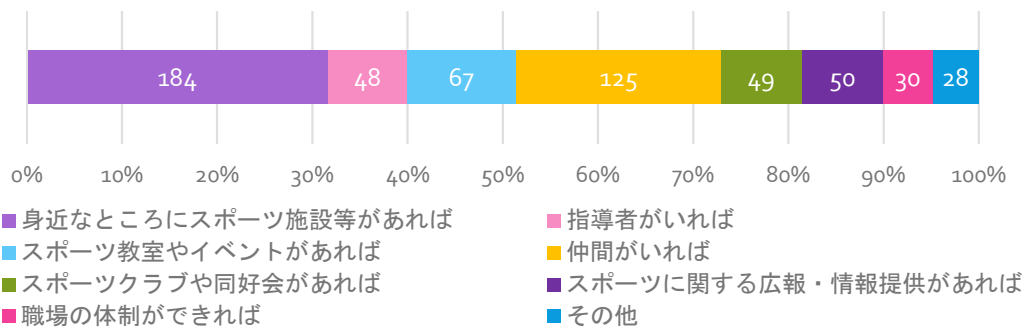
問20 (問17で①～④と回答した方) どのような理由で運動やスポーツをしていますか。(主なもの3つまで)



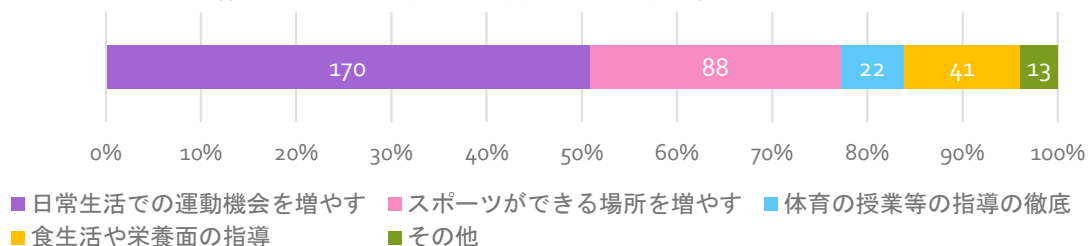
問21 (問17で⑤・⑥と回答した方) どのような理由で運動やスポーツをしませんでしたか。(主なもの3つまで)



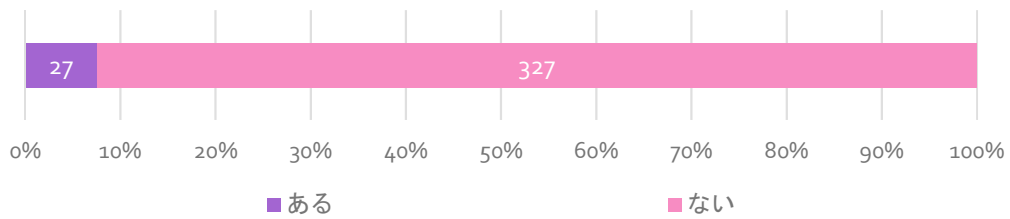
問22 どのような条件が整えば、運動やスポーツがしやすいと思いますか。(主なもの3つまで)



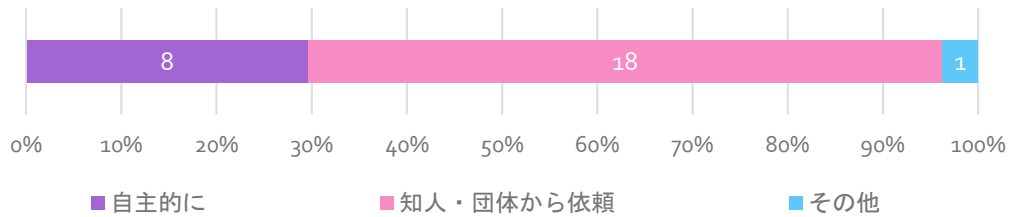
問23 子どもたちの体力向上のために、何が必要だと思いますか。



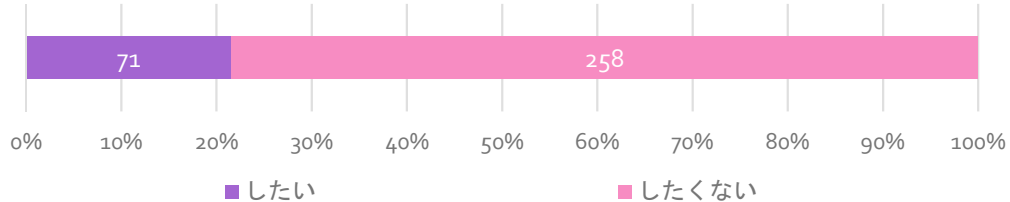
問24 この1年間に、スポーツボランティアをしたことがありますか。



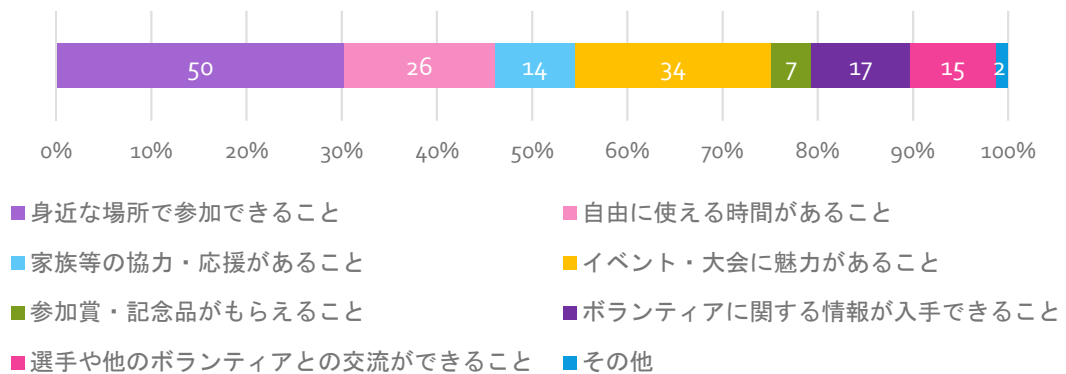
問25 (問24であると回答した方) どのような経緯でしたか。



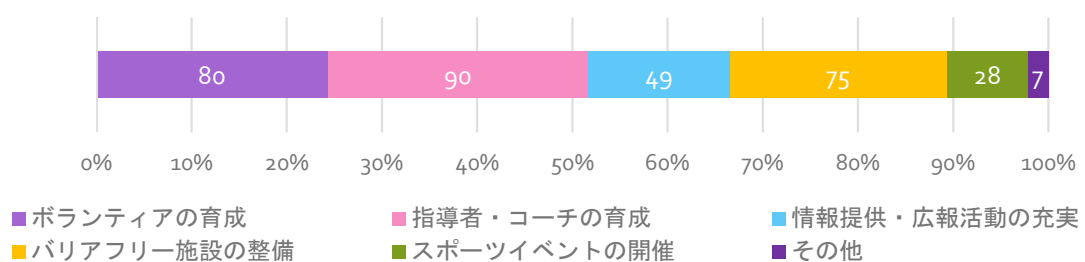
問26 今後、スポーツボランティアをしたいと思いますか。



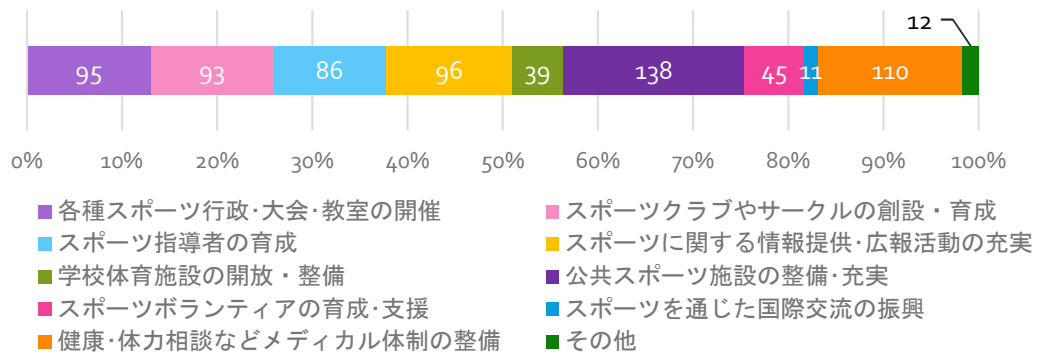
問27 (問26でしたいと回答した方) スポーツボランティアをするために、何が必要と思いますか。(主なもの3つまで)



問28 障がい者スポーツを推進するためには、何が必要だと思いますか。



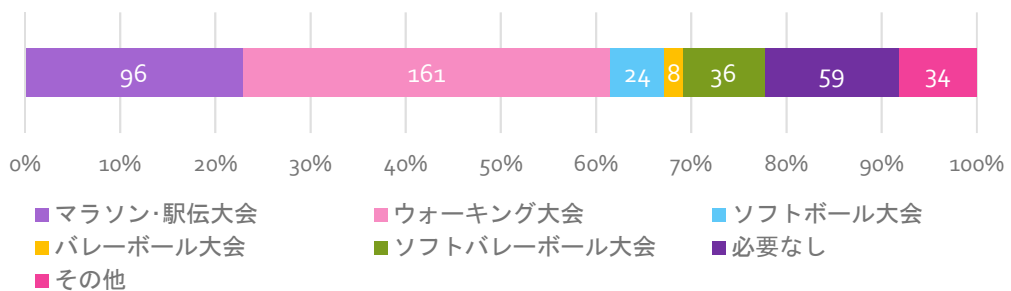
問29 スポーツを推進するために、どのような施策が必要だと思いますか。（主なもの3つまで）



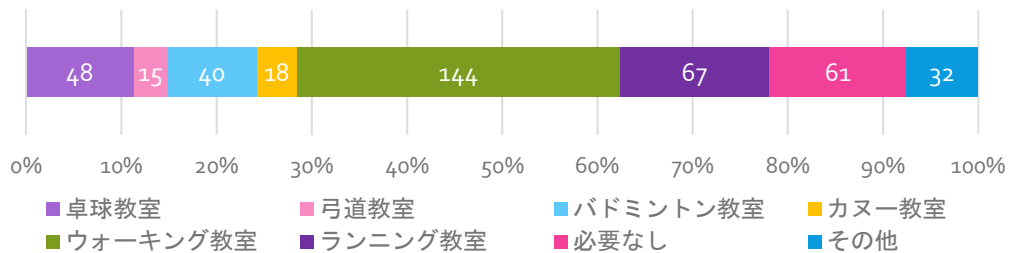
問30 今後、どのようなスポーツ施設を整備・充実していくことが必要だと思いますか。（主なもの3つまで）

スポーツ	回答数	スポーツ	回答数
体育館	107	ウォーキング・ランニングコース	145
武道場	6	サイクリングロード	47
トレーニングジム	125	プール	54
野球場	11	グラウンドゴルフ場	26
サッカー場	15	必要なし	37
テニスコート	7	その他	24
陸上競技場	18		

問31 スポーツを推進するために、市が主催又は共催して、どのようなスポーツ大会を開催する必要があると思いますか。（主なもの2つまで）



問32 スポーツを推進するために、市が主催又は共催して、どのようなスポーツ教室を開催する必要があると思いますか。（主なもの2つまで）



問33 本市のスポーツ施策に関して意見を聞かせてください（一部を抜粋・編集して掲載しています。）。

- ・ 少子化でスポ少が成り立たなくなっている。複合地域スポーツクラブ等で、幅広い年代と交流でき、指導者を備えた組織が必要だと思う。
- ・ マラソン、駅伝の大会が多い一方、サイクリングやカヌーなど他のスポーツイベントが少ない。萩市の魅力になりそうなスポーツのイベントを検討してほしい。
- ・ オリンピック種目に選ばれ、関心も高まってきているボルダリングやスケボーの大会などを萩で是非やってみてほしい。他の市でやっていないことに挑戦してほしい。
- ・ プロとして活躍された方の講演会などを開催してもらえると、実際に体を動かすことが難しい方でも参加しやすいと思う。
- ・ 初心者でも気軽に参加できる講座などがあると良い。
- ・ ウォーキングやサイクリングが快適にできる環境を整えてほしい。
- ・ スポーツ教室の開催に当たっては、多くの人が参加しやすい時間帯となるよう考慮してほしい。
- ・ 気軽に参加でき、参加者同士が交流できるスポーツの場を作してほしい。
- ・ 高齢者が目的意識を持ってスポーツに取り組める施策を考えてほしい。
- ・ 世界レベルのアスリートが拠点とするカヌー練習場があるので、もっとPRして、青少年の体力向上やアスリートの育成につなげてほしい。
- ・ スポーツボランティアが必要だと思う。
- ・ 特定の競技だけでなく、幅広い競技を推進すべき。
- ・ PRが足りないと思う。市民に広く情報提供をしてほしい。
- ・ 離島や僻地^{へき}において、スポーツ指導者の派遣やスポーツ施設の充実を図って欲しい。

